

令和5（2023）年度
柏崎市教育委員会
点検・評価報告書

柏崎市教育委員会

目 次

はじめに	P 1
総評(教育委員会事務評価委員会)	P 2 ～ 5
第1 教育委員会の会議及び委員の主な活動	P 6 ・ 7
第2 教育委員会の事務の管理及び執行状況	P 8
1 子どもや若者の「たくましさ」をはぐくむ	P 8 ・ 9
(1) 知徳体のバランスの取れた教育を進める	P 10 ～ 13
ア 基礎学力をしっかりと身に付ける教育の推進	
イ 他者を思いやり、豊かな人間性をはぐくむ教育の推進	
ウ 体力を高め、健やかな体をはぐくむ教育の推進	
(2) 地域の人・もの・資源を活かして若者を育てる	P 13 ～ 16
ア ふるさと柏崎をこよなく愛し、発展させる人材の育成	
イ 教育における学校・家庭・地域の連携	
ウ 子どもの健全育成支援の推進	
(3) 教育環境を充実させる	P 17 ～ 20
ア 良好な教育環境の整備	
イ 教育現場の I C T 環境の充実	
2 学びを通じて地域の「たくましさ」をはぐくむ	P 21
(1) 学びの機会を充実させる	P 22 ～ 25
ア 多様な学習・交流機会の提供	
イ 社会教育環境の充実	
(2) 家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する	P 26
ア 地域づくりへの学習成果の活用	
イ 様々な主体との連携による生涯学習の充実	
3 スポーツを通じた「たくましさ」をはぐくむ	P 27
(1) スポーツによる地域づくりや生きがいを進める	P 27 ・ 28
ア ライフステージに応じたスポーツの推進	
イ スポーツによる交流人口の拡大	
(2) 全国や世界に通用する競技者を育てる	P 29 ～ 31
ア 競技団体との連携の強化と指導者の養成	
イ 競技力の向上に向けた取組の推進	
ウ 施設の整備と改修	
4 歴史や文化の息づく「柏崎らしさ」をつくる	P 32
(1) 歴史・文化を保全・活用し、継承する	P 33 ・ 34
ア 伝統芸能の継承	
イ 歴史・文化資産の保存と活用	
ウ 産業文化や生活文化の保存と活用	
エ 景観まちづくりの推進	
(2) 市民の主体的な文化活動を支援する	P 34 ・ 35
ア 市民の文化活動への支援	
イ 多様な文化交流の推進	
5 その他教育関係事務事業	P 36
用語解説	P 36
参考	P 37

はじめに

1 点検及び評価の背景

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなっています。また、その点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

柏崎市教育委員会は、法の趣旨にのっとり、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施しました。

2 点検及び評価の対象

評価対象の事務事業は、第五次総合計画（後期基本計画）の施策体系を基本に、柏崎市教育大綱を踏まえ、令和5（2023）年度に執行した事務事業のうち80事業を対象として点検及び評価を行いました。また、やむを得ず事業を次年度に繰り越したことにより、評価をすることができないものについては、評価不能としました。

<内部評価ランク>

- [S] 期待を超える成果があった。
- [A] 期待どおりの成果があった。
- [B] 期待に比べ成果が少なかった。
- [-] やむを得ず事業を次年度に繰り越したことにより、評価することができなかった。

3 学識経験者の知見の活用

点検及び評価に当たっては、その客観性を確保するため、教育委員会が行った内部評価に対して、教育に関し学識経験を有する者で組織する教育委員会事務評価委員会に諮問し、御意見をいただきました。

総 評

令和5（2023）年度に柏崎市教育委員会が執行した事務の内部評価及び状況について点検及び評価を行った。評価のポイントは、柏崎市第五次総合計画後期基本計画と柏崎市教育大綱を踏まえて、適切に事業が行われているかを主眼とした。評価に当たっては、教育委員会担当課から内部評価の聞き取りを計2回に分けて行った。

事務評価委員会として、以下のとおり総評する。

総合計画の基本方針に基づき、知徳体のバランスの取れた教育や教育環境の充実により、子どもたちの健全育成を図るとともに、子どもから大人まで全ての市民が学びやスポーツに親しむことにより、たくましいまちをつくらしている。

事務評価委員会では、教育委員会の80の事務事業について点検及び評価を行ったところ、実施された事業は、おおむね期待した成果があるものと認めた。

事業別の評価結果は、次のとおりであった。

Sランク	・・・	1	事業
Aランク	・・・	77	事業
Bランク	・・・	0	事業
－（評価不能）		2	事業

本市の教育の充実を図るため、令和5（2023）年度は、学区再編方針に基づいた統合案について学区等審議会から答申を得ることができたほか、教員の働き方改革の一環として指導補助事業を積極的に推し進めるとともに、教育各分野において、事務事業が予算に基づいて確実に執行された。

新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていた事業の復活や規模の拡大など、コロナ禍以前の活動を実施することができた一方、令和6年能登半島地震の影響でやむを得ず繰り越した事業もあった。

今後の教育委員会の事業実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行したことから、従来の社会活動が行えるようになったが、コロナ禍がきっかけで見直した各種事業の実施方法について改めて検討し、良い部分については引き継ぎ、見直す部分についてはよく考慮していく必要がある。その上で事業を適正かつ効果的に実施することが求められる。

項目別の評価は、次のとおりである。

<事務評価委員会における項目別の主な評価等>

第1 教育委員会の会議及び委員の主な活動 (P6・7)

教育の現状や課題の把握に努め、適切に活動していると認められる。

- ・学区等審議会から受けた第2次答申を踏まえ、学区再編方針について市長と意見交換を行い、今後の教育環境の課題の把握と解決に努めている。子どもの数が減少していく中、子どもたちが安心して学ぶことができる学習環境を整えるため、検討を継続していくことを期待する。

第2 教育委員会の事務の管理及び執行状況

1 子どもや若者の「たくましさ」をはぐくむ

(1) 知徳体のバランスの取れた教育を進める (P10-13)

期待した成果があるものと認められる。

- ・部活動の地域移行について、令和8(2026)年度の本格実施に向けた試行が始まっており、部活動指導員の豊富な知識経験をいかした子どもへの指導を期待するとともに、教員の負担軽減につながることを期待する。
- ・健康観察アプリを始めとするツールについては、積極的に有効活用をしていくべきだが、電子上で見て取れる情報だけでなく児童生徒の状況をしっかり見た上で、適切なサポート等の継続を期待する。
- ・移動図書館は、普段図書館に行けない家庭や子どもにとって、気軽に本と触れ合える良い機会となっている。子どもたちの意見も取り入れて持参する本の選定を行うことで、児童生徒が読書へ興味を持ち、読書習慣を身に付けることを期待する。

(2) 地域の人・もの・資源を活かして若者を育てる (P13-16)

期待した成果があるものと認められる。

- ・児童生徒が関わる活動について、チラシ配付だけでなく多くの保護者の目にも留まるように周知の方法を工夫し、活動をPRしていくことが必要である。
- ・市P連が実施する子ども育成事業に対する費用負担支援について、申請する団体に偏りが見られるので、広く周知し、多くの団体へ支援を行うことを期待する。
- ・学校生活を営む上で不安や悩みを抱える生徒が増加傾向にあるので、生徒が抱える不安や悩みを払拭し、安心して学校生活を送れるように支援の継続を期待する。

(3) 教育環境を充実させる (P17-20)

期待した成果があるものと認められる。

- ・児童生徒の学力向上について、数値上の結果だけではなく、子どもたち自身の学習意欲や学習への取組を見た上で指導・助言し、推進していくことを期待する。
- ・近年の異常気象により夏が酷暑となっているので、普通教室だけでなく全校の特別教室への計画的な冷房設備導入を着実に進めていく必要がある。また、トイレの洋式化についても同様に整備を行っていく必要がある。
- ・子どもの数が減少していることから、統合についての検討は避けられないが、統合後子どもたちが安心して通学できるようなスクールバスの運行を期待する。
- ・学校給食費の未納分について、着実に徴収できるよう手立てを考えていく必要がある。

2 学びを通じて地域の「たくましさ」をはぐくむ

(1) 学びの機会を充実させる (P22-25)

期待した成果があるものと認められる。

- ・二十歳のつどいは、成人としての自覚を芽生えさせるだけでなく、郷土に戻ることで横のつながりも確認できる良い機会であるので、事業の継続を期待する。
- ・子どもが小さいうちから本に親しんでもらうことで読書習慣が身に付き、将来的に豊かな精神が養われていくので、活動の継続を期待する。
- ・柏崎市のプラネタリウムは施設及び投影機の規模が大きく、同規模のプラネタリウム施設は県内に3施設しかない。市内外問わず多くの小・中学校の学校教育活動にも寄与しているので、今後も安全に利用できる環境整備と更なる工夫を期待する。

(2) 家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する (P26)

期待した成果があるものと認められる。

- ・市民へ学ぶ喜びや楽しさを提供するため、市民の興味を引く講座を選定し、幅広い世代が求める学びの機会を提供できるよう引き続き実施を希望する。

3 スポーツを通じた「たくましさ」をはぐくむ

(1) スポーツによる地域づくりや生きがいづくりを進める (P27・28)

期待した成果があるものと認められる。

- ・市民に運動の機会を提供するため、多種のニュースポーツを体験できるスポーツ大会を開催し、市民が継続して運動したいと思えるような種目を増やしていく必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行したことに伴い、各種スポーツ大会が従来どおり開催可能となったことから、スポーツを身近に感じられる場を更に広げていくことを期待する。

(2) 全国や世界に通用する競技者を育てる (P29-31)

期待した成果があるものと認められる。

- ・水球のまち柏崎として、水球人口を増やすことは重要であり、水球に触れる機会を増やし、児童生徒が水球へ興味を持ってもらえるような活動の継続を期待する。

4 歴史や文化の息づく「柏崎らしさ」をつくる

(1) 歴史・文化を保全・活用し、継承する (P 3 3・3 4)

期待した成果があるものと認められる。

- ・ユネスコ無形文化遺産に登録されている綾子舞について、伝承者を育成していくことが重要であり、伝承者養成講座等を利用した人材の確保と、その文化を途絶えさせないような取組を期待する。

(2) 市民の主体的な文化活動を支援する (P 3 4・3 5)

期待した成果があるものと認められる。

- ・文化芸術活動を行う市民へ発表の場を提供することは、参加者が自己実現を図ったり、生活の質を向上させたりするために非常に有効であることから、事業の継続を期待する。
- ・文化芸術活動の成果を社会に還元できるような仕組みを考えていく必要がある。

5 その他教育関係事務事業 (P 3 6)

期待した成果があるものと認められる。

- ・人権に対する知識を深めることが大切であり、今後も継続的な人権教育、同和教育及び啓発活動に取り組んでいく必要がある。

令和6年(2024年)7月22日

柏崎市教育委員会事務評価委員会

委員長 吉田 存祐

副委員長 中村 富美子

委員 山田 信行

委員 北川 雅也

第1 教育委員会の会議及び委員の主な活動

1 教育委員会会議の開催状況

開催月	審議事項等			報告事項				
	条例、規則等の制定・改廃	人事案件	その他の案件					
4月定例会	2件	市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定ほか	5件	柏崎市奨学金貸付選考委員会委員の解職及び委嘱ほか	1件	令和5（2023）年度一般会計補正予算（第3号）	6件	令和5年度（2023年度）柏崎市奨学生の選考結果ほか
5月定例会		—	1件	柏崎市立教育センター運営委員会委員の解職及び委嘱	2件	令和5（2023）年度一般会計補正予算（第6号）ほか	9件	教科書展示会の開催ほか
6月定例会		—	2件	柏崎市立教育センター運営委員会委員の解職及び委嘱ほか	2件	令和5（2023）年度一般会計補正予算（第8号）ほか	10件	市議会6月定例会議の一般質問ほか
7月定例会	2件	柏崎市立学校通学区規則の一部を改正する規則の制定ほか		—	1件	令和6（2024）年度使用小学校教科用図書採択	5件	荒浜小学校校舎棟改築工事着工ほか
8月定例会	1件	新潟県柏崎市交流プラザ設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定		—	2件	令和5（2023）年度一般会計補正予算（第10号）ほか	8件	第58回柏崎刈羽地区児童生徒科学作品展ほか
9月定例会		—		—	1件	令和5（2023）年度一般会計補正予算（第11号）	7件	市議会9月定例会議の一般質問ほか
10月定例会	2件	新潟県柏崎市教育委員会事務局文書取扱規程の一部を改正する規程の制定ほか		—	1件	市立中学校における部活動中の車両物損事故による和解及び損害賠償額の決定	10件	小中学校学区外就学許可状況（4月～9月）ほか
11月定例会		—		—	2件	令和5（2023）年度一般会計補正予算（第13号）ほか	6件	「マナビステージinかしわざき2023」の開催報告ほか
12月定例会		—		—		—	5件	市議会12月定例会議の一般質問ほか
1月定例会		—		—	6件	令和5（2023）年度一般会計補正予算（第15号）ほか	5件	柏崎の花 -Spring Collection2024-の開催ほか
2月定例会	10件	学校事務支援職員任用要綱の一部改正ほか		—	2件	令和5（2023）年度一般会計補正予算（第19号）ほか	4件	第54回新潟県ジュニア美術展覧会柏崎展の開催報告ほか
3月定例会	6件	学校給食共同調理場設置条例施行規則の一部を改正する規則の制定ほか	3件	令和6（2024）年度教育委員会事務局等の人事異動内示ほか	2件	令和5（2023）年度一般会計補正予算（第21号）ほか	12件	市議会2月定例会議の一般質問ほか
計		23件		11件		22件		87件

2 学校訪問

- (1) 令和5（2023）年10月13日（金） 新道小学校、南中学校、第一中学校、柏崎小学校
- (2) 令和5（2023）年10月25日（水） 内郷小学校、西山中学校、二田小学校
- (3) 令和5（2023）年10月30日（月） 枇杷島小学校、半田小学校、鏡が沖中学校

・学校訪問の趣旨

- (1) 学校訪問を通して、学校の現状や課題、小中一貫教育の取組等を把握し、教育行政に役立てる。
- (2) 学習活動の参観や教職員との懇談等を通して、教育実践の高揚を図る。

・学校訪問の概要

授業や集会など児童生徒の教育活動の参観、校長による学校運営説明、教職員との懇談、教育委員指導など

3 総合教育会議（市長と教育委員会が、市の教育や子育て施策について幅広く話し合う会議）

令和6（2024）年1月12日（金） 市役所

議題

- (1) 学区等審議会からの答申を踏まえた統合計画の確定について
- (2) 不登校児童生徒の現状と課題について

4 出席事業

4月：教育委員会招集校長会

5月：二十歳のつどい

7月：ぎおん柏崎まつりマーチングパレード

9月：教育懇談会

10月：柏崎市美術展覧会（市展）表彰式

2月：教育委員会表彰式

3月：高柳小学校閉校式、小学校卒業式、中学校卒業式

1 子どもや若者の「たくましさ」をはぐくむ

【第五次総合計画・後期基本計画における施策の方針】

未来の担い手となる子どもたちの「生きる力」を育むため、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む、知徳体のバランスの取れた教育を推進します。

子どもたちが自ら学ぶ意欲を高め、将来にわたり社会の中で生きて働くための学力をしっかりと身に付けさせるため、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を進めるとともに、デジタル教材を効果的に活用し、基礎学力を向上させる教育を推進します。

また、学校の教育活動全体を通して道徳教育を充実させるほか、地域活動への積極的参加や優れた芸術文化に触れる機会の創設などに取り組み、豊かな人間性を育む教育を推進します。

さらに、子どもたちの体力を高めるために、各校で重点を定めた1学校1取組を進め、運動の楽しさや喜びを味わいながら、自らの体力の向上を実感することができる教育を推進します。また、食とスポーツを連携させて望ましい生活習慣を確立し、健やかな体を育む教育を推進します。

学校と家庭、あるいは学校と地域や企業等が連携し、より良い生活習慣づくりに取り組むとともに、ふるさと柏崎をこよなく愛する子どもたちを育て、将来の柏崎を担う人材を育成します。

あわせて、良好な教育環境とするため、学校の施設や設備、教材の充実、担任や担当者のニーズに合った研修の推進、心の相談体制の充実、学校施設の計画的な改築や改修、ICT支援員の配置などを進めます。

◆ 主な事業

教育総務課

○ 学区等審議会経費

令和3(2021)年12月に教育委員会が策定した市立小・中学校学区再編方針のうち、令和8(2026)年度に示した日吉小及び中通小の統合と、剣野小、鯨波小及び米山小の統合について、教育委員会からの諮問どおり、令和5(2023)年12月26日に学区等審議会から答申を受領することができた。

○ 情報機器管理費

小・中学校における教育ICT(※)環境について関係者間で情報を共有し、機器の整備を推進するため、定期的(2か月に1回)に学校教育ICT連絡会議を開催した。学校現場の現状や課題などについて意見交換を行い、情報を共有することができた。

○ 小学校施設整備事業

二田小学校及び鯖石小学校のトイレ改修工事(洋式化)並びに鯖石小学校及び田尻小学校の体育館照明改修工事(LED化)を実施したことにより、施設の利便性及び快適性が向上し、良好な教育環境の整備ができた。

○ 中学校施設整備事業

第一中学校及び北条中学校のトイレ改修工事(洋式化)並びに瑞穂中学校の食堂改修工事を実施したことにより、施設の利便性及び快適性が向上し、良好な教育環境の整備ができた。

学校教育課

○ 通級指導教室事業

柏崎小学校と第三中学校にそれぞれ発達障害通級指導教室が新設された。通級指導教室の環境整備や通級指導担当者主催の研修会を通して、担当者の指導力向上や児童生徒の実態に合った教室環境の整備を図ることができた。

今後は、令和8(2026)年度の通級指導担当教員の基礎定数化に向けた通級指導教室の設置と担当教員の育成に引き続き取り組んでいく必要がある。

○ 指導補助員事業

指導補助員46名、部活動指導員16名及び日本語指導員2名の配置によって、支援が必要な児童生徒への学習指導や生徒指導の充実を図るとともに、授業や部活動における一人一人の能力を伸ばす教育を実現することができた。

通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒の増加、日本語指導が必要な転入児童生徒の増加、部活動の地域移行に伴う部活動指導員の増員など、今後の教育的ニーズに対応できる人材の確保と、指導・支援の専門性の向上が重要である。

○ 学力向上推進プロジェクト事業

学力向上推進員及び指導主事4名による学校訪問を全小・中学校に3回ずつ実施し、授業づくりについての指導・助言や良い実践の情報発信を行い、教員の授業力向上を支援することができた。

また、研究主任研修会を3回実施し、児童生徒の学力向上に向けた各校の校内研究の充実に結び付けた。

さらに、県外の研究推進校視察の報告会では、先進的な取組について全小・中学校で情報共有し、各校の研究実践にいかすことができた。

デジタル教材の有効活用にあたっては、授業、家庭学習、学力調査を効果的に連動させながら、授業と家庭学習の充実を図ってきたが、今後更に学力向上に結びつく活用へと高めていく必要がある。

文化・生涯学習課

○ 地域学校協働活動推進事業

小・中学校に地域コーディネーター42名を配置した。説明会の開催と研修会でのグループワークにより、学校と地域の課題を整理して共有することができた。学校と地域住民が共に地域の課題を解決する活動や、地域の行事に学校が参画して、共に地域づくりに関わる活動に取り組むことで、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみでの子どもの育成につなげることができた。

5月17日（水）に学校担当者に向けた「地域学校協働活動推進事業説明会」、12月6日（水）に地域コーディネーター・学校担当職員を対象とした「地域コーディネーター・学校担当者合同研修会」を実施した。説明会には学校担当者30名が、研修会には地域コーディネーター23名・学校担当者25名の計48名が参加し、人材の育成につなげることができた。

○ なぎさ体験塾

姉妹都市である東村山市並びに東久留米市及び柏崎市の小学5・6年生の子どもたちが、シーユース雷音を拠点に、2泊3日の交流体験を実施した。計42人が参加し、柏崎の自然をいかした自然体験及び仲間と寝食を共にする共同生活体験を通して交流を深めることができた。さらに、仲間と協力して物事を成し遂げる経験により、子どもたちの社会性の育成につなげることができた。

○ ジュニア・リーダー養成事業

柏崎市内の小・中学生を対象に、子ども会などでリーダーとして活躍できる知識や技能を身に付けることを目的とした研修を9回実施した。年齢や学区の異なる19人の児童生徒が参加し、互いに協力して活動することを通して、社会性や協調性を育むことができた。また、子どもが自ら考え、主体的に活動することを念頭に研修を進め、リーダーとしての資質を養うことにつながった。

図書館

○ 移動図書館事業

図書館利用が困難な市民が多様な図書に出会う機会を提供し、市民の読書活動の充実を支援することができた。移動図書館は利用者が2,897名、貸出冊数が8,912点であった。貸出文庫は利用団体数が64団体、貸出冊数が16,620点であった。

○ 図書館サービス事業

学校読書支援員5名が市内の小学校20校を巡回し、学校図書館の読書環境整備や児童への読書支援を行うことができた。市内の小学校20校の満足度調査では、全体を通して「大変良い」「まあまあ良い」が94.7%と評価を得た。

柏崎高校の授業の一環である「柏崎サイエンスプロジェクト（KSP）」活動への支援として、12班59人の生徒にレファレンス（※）を行った。高校図書室との連携も良好に行われている。

(1) 知徳体のバランスの取れた教育を進める

ア 基礎学力をしっかりと身に付ける教育の推進

イ 他者を思いやり、豊かな人間性をはぐくむ教育の推進

ウ 体力を高め、健やかな体をはぐくむ教育の推進

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
1 学校教育活動推進事業 [学校教育課]	14,603	14,044	特色ある教育活動を推進するため、全小・中学校に奨励金を交付した。 <奨励金> (例) 柏崎小：298,000円 第一中：211,500円 <内訳>校外学習などの輸送費、各種行事(地域との交流)に係る経費等	○ 各学校が体験活動、キャリア教育、小・中学校と地域が連携した取組などを工夫して実践し、特色ある教育活動を推進することができた。 ● 各学校が目指す子ども像を明確にし、その具現化に向けた特色ある豊かな体験活動となるよう、事業を推進する。	A
2 英語教育推進事業 [学校教育課]	30,126	27,461	小・中学校における英語教育と国際理解教育の充実のため、常勤5名、非常勤1名のALT(外国語指導助手)を配置・活用した。小学校の外国語、外国語活動の授業や中学校の英語授業で教諭とのチームティーチングなどを実施した。	○ ALTの活用により、英語によるコミュニケーション活動が活発かつ効果的に行われた。定期的にALT研修を実施し、情報交換を行うことで指導力が向上し、事業は予定どおり実施することができた。 ● ALTの授業力向上を目指し、月1回のALT会議等における授業研修を更に充実させる。	A
3 指導補助事業 [学校教育課]	130,031	124,458	小・中学校27校に、前年度より1名多い46名の指導補助員を配置し、学習指導や生徒指導等の充実に向けた支援を行った。 小・中学校4校に2名の日本語指導員を配置し、外国にルーツをもつ児童生徒6名の日本語力向上に向けた支援を行った(鯨波小、田尻小、第一中、第二中)。 中学校9校に16名の部活動指導員を配置し、部活動の充実に向けた支援を行った(第一中・第三中・鏡が沖中・瑞穂中・松浜中・南中・東中・北条中・西山中)。	○ 指導補助員の配置により、授業のねらいの達成に結び付ききめ細やかな指導・支援が行われ、児童生徒一人一人の能力を伸ばす教育が推進された。 日本語指導員の配置により、該当児童生徒の日本語指導や就学支援で成果が見られた。 部活動指導員の配置により、教員の働き方改革につながった。 ● 全国学力学習状況調査及び総合学力調査では、学校差や個人差が課題となっており、効果的な指導補助員の活用法を共有していく必要がある。 日本語指導員は、今後もニーズの増加が予想される。必要に応じた配置を行う。 部活動指導員は、休日の部活動地域移行の令和8(2026)年度本格実施に向け、継続的な人員の確保に努める。	A
4 小・中学校音楽関連事業 [学校教育課]	2,236	1,091	豊かな感性とふるさと柏崎に対する誇りや愛着を育むことを目的に、公益財団法人ニッセイ文化振興財団を招き、「ニッセイ名作シリーズ2023 音楽劇「精霊の守り人」」を、市内小学5年生・6年生・中学1年生が鑑賞する場を設定した。9月6日(水)アルフォーレで、午前・午後の2部構成で開催した。	○ 市内児童1,186名、生徒630名が鑑賞した。迫力のある演技や情景を表す舞台音楽に引き込まれ、事後アンケートでは、「また舞台公演を観たい」などの肯定的な感想が90%であった。 ● 一部、公演中の鑑賞マナーを心配する声があった。演劇、演奏、それぞれの公演に応じた鑑賞マナーについて、アルフォーレの協力を得ながら事前学習の機会を設ける。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
5 科学技術教育事業 [教育センター]	8,436	7,679	教職員の理科・生活科・総合・環境教育等の専門研修・相談支援のため研修会を実施した(計32回、参加者数237名)。 科学教育振興として、科学作品展・科学研究発表会・科学のえんま市2023等の事業を実施した(計12回、参加者数2,010名)。 科学教育支援として、学校等の要請研修実施(計74回、参加者数2,150名)・教材機器等貸出し(112件)・理科教育相談支援(374件)を行った。	○ 教科研修参加者からは「研修内容は分かりやすい」81.9%、「教材の提案は妥当である」81.9%、「指導にいかしたい」67.3%と高評価を得ており、現場のニーズに即した研修を実施することができた。 ● 研修参加者が研修内容をすぐに授業等へいかすことができ、かつ、児童生徒の学力向上につながる手立てを検討し、実施していく必要がある。また、科学研究発表会や作品展への参加児童生徒数を維持及び増加させるため、科学研究を指導する教員及び保護者への具体的な支援が必要である。	A
6 教職員研修事業 [教育センター]	4,639	4,153	教職員の資質・能力向上のため、対面研修と遠隔型研修を組み合わせてながら講座を実施した。 講座回数115回(令和4(2022)年度:150回) 受講者数2,540名(令和4(2022)年度:2,932名)	○ 対面型と遠隔型のよさをいかして、学力向上に向けた各教科の講座を始め、ICT活用に関する研修など、令和の日本型学校教育を踏まえた研修講座を数多く実施した。多くの参加者から肯定的な評価を得た。 ● 児童生徒の学力向上につながる授業改善のための研修を更に充実させる。また、GIGAスクール端末関連研修や学校現場のニーズに応える魅力ある研修を企画・運営する。	A
7 一般教材整備費 [学校教育課]	12,821	12,801	小学校に、国語・算数(全学年)、社会・地図(5、6年)、理科(3~6学年)のデジタル教科書(※)を整備した。 中学校に、国語・社会・数学・理科・英語(全学年)のデジタル教科書を整備した。 GIGAスクール構想(※)の導入に伴い、インターネットを通じて遠隔授業や課題提示等を行うために、著作権法が規定する授業目的公共送信の補償金を支払った。	○ デジタル教科書の整備を進め、小・中学校において電子黒板や学習用タブレットとともに一層の利活用を図った。課題提示や問題解決の場面で、デジタル教科書を効果的に活用することにより、学習内容の定着を図ることができた。 ● 年度途中の活用状況を確認し、有効活用するための指導を進めてきたが、まだデジタル教科書の活用に個人差がある。引き続き、具体的な活用事例を紹介するなど利活用の促進を図り、児童生徒の学力向上につなげる。	A
8 学校医報酬等 [学校教育課]	17,658	17,298	学校医、学校歯科医により全小・中学校全学年及び新年度小学校入学予定者に内科及び歯科検診を実施した。くわえて、耳鼻科及び眼科検診を小学校1、3、5年及び中学校1、3年に実施した。感染症流行時の予防に関し学校医から、学校環境衛生に関し学校薬剤師から助言や指示を受けた。	○ 市立小・中学校の児童生徒に対して健康診断を実施し、健康な学校生活を送るための基盤づくりに寄与した。 ● 医師会・歯科医師会からの要望への対応や、児童生徒の健康の保持増進に向け、学校医との連携を丁寧に行っていく必要がある。	A
9 検診費 [学校教育課]	7,425	6,863	小・中学校の児童生徒に定期健康診断と関連し検診を実施した。受診者数は、心臓検診1,059人、検尿(一次・二次)5,087人、運動器検診27人、小児生活習慣病予防検診37人であった。小児生活習慣病予防検診は、肥満度が高い児童生徒及び保護者を対象に生活改善を目的に実施した。教職員の健康診断(一般・歯科)、ストレスチェック事業を実施した。	○ 市立小・中学校の児童生徒及び教職員に対して健康診断を実施し、引き続き健康な学校生活を送るための基盤づくりに寄与した。 ● 健康診断結果を参考に、児童生徒及び教職員の健康上の特性に合わせた健診内容を検討していく必要がある。	A

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
10	むし歯予防対策費 [学校教育課]	4,162	3,299	学齢期歯科保健事業（歯科健康教室、就学時保護者歯科健康教育、継続的歯科保健事業）の歯科衛生士派遣及び歯科保健教材を活用したむし歯予防、歯肉炎予防などの歯科保健活動を実施した。フッ化物洗口事業を全小・中学校で保護者の同意を得て実施した（実施率97.3%）。	○ むし歯保有率が小学校では令和4(2022)年度の6.9%から5.2%に、中学校では令和4(2022)年度の21.2%から19.3%に減少した。学年別治療歯率は、小・中9学年のうち、8学年において県平均を上回り、児童生徒の口腔衛生の向上が図られた。 ● 学齢期からのむし歯予防や歯肉炎予防のため、引き続き事業を継続していく必要がある。	A
11	学校保健推進費 [学校教育課]	9,506	8,598	検診器具管理の業務委託により、検診器具の消毒と配送業務が遂行された。中学校に加えて小学校でも健康観察アプリを導入し、感染症拡大予防の健康観察を実施した。外部講師（助産師）による思春期保健に関する専門的な指導を全中学校で行った。	○ 検診器具の適切な管理により、健康診断を安全に実施できた。健康観察アプリを生徒や保護者が使用したこと及び外部講師による専門的指導は、児童生徒、保護者及び教職員の健康意識の向上に有効であった。 ● 現場のニーズに合った保健教材の充実や健康観察アプリの有効な活用について、今後も検討していく。	A
12	移動図書館事業 [図書館]	3,069	1,710	移動図書館 市内19小学校（柏崎小学校を除く。）に計152回（月1回程度）巡回し、児童の読書推進を図った。（令和4(2022)年度：161回）※回数の減は図書館事務室改修工事期間に休止したことによる。 ・貸出利用…2,897人、8,912点（令和4(2022)年度：3,136人、8,664点）※1人当たり貸出点数3.1点（令和4(2022)年度：2.8点） 貸出文庫 コミセンや介護福祉施設、幼稚園・保育園等64（令和4(2022)年度：67）の希望団体に40～50冊程度の図書を貸し出し、施設利用者の読書推進を図った。 ・利用数…16,620点（令和4(2022)年度：17,260点）	○ 各小学校や各施設においても多くの図書から主体的に本を選ぶことができるため、読書への興味や意欲を高めることができた。また、図書の内容も定期的に入れ替わるため、読書の幅を広げる機会となるなど、市民の読書活動の支援を行うことができた。 ● 市民が充実した読書機会を得られるよう、引き続き事業を継続し、活用を促していく必要がある。また、稼働後相当年数を経過している移動図書館車について、今後の市民ニーズを踏まえた上で更新を検討する必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
13 図書館サービス事業 [図書館]	59,130	58,000	資料の整理・貸出し・登録・修理など利用者の環境整備とソフィアだよりの発行やホームページなどにより広報を行った。また、資料の特設展示を43回(昨年度42回)行った。 ・貸出者数 … 100,834人(令和4(2022)年度:101,721人) ・貸出冊数 … 290,607点(令和4(2022)年度:307,329点) ・入館者数 … 258,668人(令和4(2022)年度:239,516人) 利用者のレファレンス照会に対応した。 ・対応実績 … 1,083件(令和4(2022)年度:1,192件) 柏崎高校おすすめ図書の紹介と「柏崎サイエンスプロジェクト(KSP)」の活動支援を実施した。 ・利用実績 … 12班59人(令和4(2022)年度:12班60人) 学校読書支援員5人が市内全20小学校を巡回し、図書の廃棄、書架整理、資料整備、読書指導など、学校図書館の読書環境整備と児童に対する読書支援を行った。また、学校に対し支援活動の満足度調査を実施し、課題を把握して学校との連携を図った。	○ 夏期(7~9月)と冬期(12~2月)に前年同時期を大きく上回る入館者があり、年間の入館者数が増加した。特に2月はイベント等の開催により、前年同月比4,000人超の入館者となった。貸出者数・貸出冊数は減少した。 ○ レファレンス対応や特別展示により、引き続き市民の生涯学習の支援を行うことができた。柏崎高校の「柏崎サイエンスプロジェクト(KSP)」活動への支援を継続していることにより、高校図書室とも良好な連携が行われてきている。 ○ 学校読書支援員の巡回支援により、児童の読書への興味や学習意欲の向上に寄与することができた。市内20小学校担当者への満足度調査では、全体を通して「大変良い」「まあまあ良い」が94.7%(令和4(2022)年度:93.6%)と評価を得た。 ● 読書環境の充実や読書機会の創出に引き続き取り組むとともに、積極的な情報発信をすることで、幅広い市民からの図書館施設の利用促進を図る必要がある。 ● 学校読書支援員による各小学校図書室の支援体制を継続するとともに、中学校図書室の環境整備について支援の必要性を検討する必要がある。	A

(2) 地域の人・もの・資源を活かして若者を育てる

ア ふるさと柏崎をこよなく愛し、発展させる人材の育成

イ 教育における学校・家庭・地域の連携

ウ 子どもの健全育成支援の推進

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
14 かしわざきこども大学事業 [学校教育課]	4,579	3,734	地域団体や大学等と連携して3コースの事業を実施するとともに、こどもの笑顔創造プロジェクト及び学校教育活動推進事業を実施した。 自然体験コース(29園と特別支援学校1校計576人参加)キャリア教育コース(4校275人参加)ロボット工作コース(工作クラブ3校実施28人参加、工作教室12人参加) こどもの笑顔創造プロジェクト(10団体のべ6,703人参加) 学校教育活動推進事業(市内小中学校31校参加) なお、支出について、キャリア教育コース及び学校教育活動推進事業は、別科目となっている。	○ 感染症対策を講じながら、地域団体や大学等と連携し、学校や家庭だけでは体験できない様々な活動の場を提供し、子どもたちの生きる力を育むことができた。 ● 財源であるかしわざき子ども育成基金の残高が減少しているため、新たな財源の確保を検討する必要がある。	A

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
15	通級指導教室事業 [学校教育課]	643	506	柏崎小学校と第三中学校にそれぞれ発達障害通級指導教室が新設された。指導に必要な教材や教材研究のための書籍購入等の支援及び通級指導教室の環境整備を行った。 通級指導担当者主催の研修会は、年4回実施した。 〈通級指導教室利用児童生徒数〉 小学校：260人（令和4(2022)年度：243人） 中学校：80人（令和4(2022)年度：74人）	○ 担当者の指導力向上及び教室環境の整備につながり、多様な教育的ニーズのある児童生徒が専門的な指導・支援を受けることができ、在籍校での適応力が向上した。 ● 通級指導教室を利用する児童生徒の増加や、教育的ニーズの多様化が顕著に見られる。通級指導教室の新設も含め、教室環境の整備や指導のために必要な情報端末等の更新、指導者の育成等が必要である。	A
16	特別支援学級介助事業 [学校教育課]	95,012	92,509	小学校15校に、36名の特別支援学級介助員を配置し、特別支援学級に在籍する児童が安心できる環境で充実した学校生活を送れるよう支援した。指導力向上のため研修を充実させた。 〈特別支援学級在籍児童生徒数〉 小学校：190人（令和4(2022)年度：228人） 中学校：97人（令和4(2022)年度：93人） 〈特別支援学級数〉 小学校：43学級（令和4(2022)年度：50学級） 中学校：19学級（令和4(2022)年度：25学級）	○ 特別支援学級に在籍する児童の個性・特性に応じて適切に介助員を配置したことにより、児童生徒の落ち着いた学習活動や安定した学校生活につながった。研修を通して、児童の特性に応じた具体的な支援方策について理解を深めることができた。 ● 介助員の配置については、特別支援学級数や在籍児童数の増減と個々の特性を考慮し、検討していく必要がある。	A
17	特別支援教育推進事業 [学校教育課]	6,907	6,651	特別支援教育会議では、幼児部会・小中部会合わせて、163件の審議を行った。園巡回訪問、小・中学校の授業参観、発達検査等を行い、障害の種類や程度に応じた個別の支援の必要性を判断した。 スクールサポート巡回相談では、前期と後期を合わせて52名の相談依頼があり、専門員が分担して巡回相談を行った。	○ 専門員による丁寧な調査活動により、保護者の理解を得られ、おおむね適正な就学につながる判断を出すことができた。 ● 複雑な要因のあるケースへの対応が増えている。特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターはもちろん、通常学級担任も含めたすべての教職員について、特別支援教育に関する資質向上のための研修の充実が求められる。	A
18	キャリア教育推進事業 [学校教育課]	3,199	2,926	起業学習モデル校事業を4校で実施した。市内の起業家から直接学ぶことで、生徒のチャレンジ精神や探求心を育んだ。 キャリア教育講演会は、中学校で、延べ30の個人・団体を講師に招いて、生き方や柏崎の文化、農業、職業等に関するキャリア教育講演会等を行った。 （例）第五中：「地域学習 郷土料理」（山中みどりの里）、北条中：「職業講話 働くことの意義」（水戸部智氏）、南中：「綾子舞伝承学習」（綾子舞保存振興会長）	○ モデル校事業では、年度初めに外部講師と綿密な打合せをすることによって、これまでの成果と課題をいかした取組ができた。4校で学習成果を交流する場を設けることで、更に学びを深めることができた。 ● キャリア教育講演会は、年度初めにしっかりと計画し、確実に実施するよう指導する。年度途中に実施状況や執行状況を確認する。	A

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
19	就学援助費 [学校教育課]	86,740	66,259	経済的理由で就学が困難な児童354名と生徒244名の保護者に、小・中学校における必要経費（学用品費、学校給食費等）の一部を援助した。また、同理由で就学が困難な令和5（2023）年度入学予定児童35名と生徒72名の保護者に、新入学学用品費等を援助した。	○ 就学援助費の支給を通して、該当児童生徒の充実した学校生活を支援するとともに、保護者の負担軽減を図ることができた。 ● 小・中学校の児童生徒数は年々減少しているが、児童生徒数に占める認定者の人数はほぼ変わりなく、今後も継続して事業を行う必要がある。また、学校と連携しながら保護者への制度周知を徹底していく必要がある。	A
20	就学奨励費 [学校教育課]	16,766	7,984	特別支援学級に在籍する児童126名及び生徒55名並びに他校の通級指導教室に通う児童50名及び生徒9名の保護者に、小・中学校における必要経費（学用品費、学校給食費、交通費等）の一部を援助した。	○ 特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に奨励費を支給し、保護者の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及奨励に寄与した。 ● 電子申請フォームを活用することにより、申請の利便性を向上させ、より多くの世帯に制度の利用を促す必要がある。	A
21	心の教室相談員事業 [学校教育課]	1,433	1,340	県のスクールカウンセラーの派遣回数少ない中学校6校に、4名の「心の教室相談員」を配置した。日常生活の何気ない関わりから、不安や悩みを抱える生徒に対し丁寧な対応を行った。生徒との関わりは延べ2,587件（令和4(2022)年度延べ477件）、教育相談は215件（令和4(2022)年度：44件）の報告があった。昨年度よりも相談員と継続して相談する生徒が増えた。	○ 学校の実態に応じたきめ細やかな相談支援業務を実施することができ、生徒の悩み軽減や自己肯定感の向上につながった。 ● 相談内容が多様である。学校と相談員の連携がより求められる。相談員の確保も課題である。	A
22	地域で育む子ども育成事業 [文化・生涯学習課]	705	371	市内小中学校の各PTA団体（単P）及び柏崎市小中学校PTA連合会（市P連）が実施する子ども育成事業について、費用の一部負担等の支援を行った。 ・単P事業 19事業（令和4(2022)年度：14事業） ・市P連事業 2事業（令和4(2022)年度：2事業）	○ 単P及び市P連が開催する各種研修会等により、会員の意識及び知識の醸成が図られ、子どもたちの健全育成につなげることができた。 また、鏡が沖中学校PTAが令和5年度優良PTA文部科学大臣表彰を受賞した。 ● 子どもたちを取り巻く環境は、日々変化しているため、PTA会員の知識向上を図る上で、今後も各種研修会等への支援を続けていく必要がある。	A

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
23	地域学校協働活動推進事業 〔文化・生涯学習課〕	3,900	2,478	小・中学校に地域コーディネーター42名を配置し、従来の地域が学校を支援するという一方向の活動から、学校と地域住民が共に地域の課題を解決する活動や地域の行事に学校が参画して、共に地域づくりに関わる活動に取り組むことで、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみでの子どもの育成につなげる。 5月17日に学校担当者に向けた説明会を、12月6日にコーディネーター・学校担当者を対象とした合同研修会を実施した。説明会には学校担当者30名が、研修会には地域コーディネーター23名・学校担当者25名の計48名が参加した。	○ 事業説明会及び研修会でのグループワークにより、学校と地域の課題を整理し、共有することができた。学校と地域住民が共に地域の課題を解決する活動や、地域の行事に学校が参画して、共に地域づくりに関わる活動に取り組むことで、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみでの子どもの育成につなげることができた。 ● 引き続き学校や地域の課題を整理し、共有し合うことで地域の人材の積極的な参画を狙い、地域ぐるみでの子どもの育成に携わっていく必要がある。	A
24	なぎさ体験塾 〔文化・生涯学習課〕	225	225	柏崎の海を拠点に、8月20日から8月22日まで、東村山市・東久留米市・柏崎市の小学5・6年生の子どもたちが交流体験を行った。計42人が参加した。柏崎の自然をいかした自然体験活動や生活体験活動を実施した。 ※令和2(2020)年度から令和4(2022)年度までの3年間、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止	○ 柏崎の自然をいかした自然体験及び2泊3日の合同生活体験を通して、3市の子どもたちの交流を十分に深めることができた。さらに、仲間と協力して物事を成し遂げる経験により、子どもたちの社会性の育成につなげることができた。 ● 安全性を確保した上での開催には、猛暑の対策、ライフセーバーや青少年委員（東村山市）の確保などの要件をクリアする必要がある。 ※関係団体と協議の上、令和5(2023)年度をもって終了とした。	A
25	ジュニアリーダー養成事業 〔文化・生涯学習課〕	(88)	(50)	柏崎市子ども会連合会との協働により、柏崎市内の小・中学生及び高校生（相当年齢）を対象に、子ども会などでリーダーとして活躍できる知識や技能を身に付けることを目的とした研修を実施した。 ・ジュニア・リーダー養成研修参加者 19人（令和4(2022)年度：22人） ・参加者の内訳は、小学生6人、中学生7人、高校生6人 ・研修実施回数 9回（令和4(2022)年度：7回）	○ 年齢や学区の異なる児童生徒が研修に参加し、互いに協力して活動することを通して、社会性や協調性を育むことができた。また、子どもが自ら考え、主体的に活動することを念頭に研修を進め、リーダーとしての資質を養うことにつながった。 ● 小・中学生が研修で得た知識や技術を子ども会活動に限らず、各地域における行事等において発揮し、中心的な役割として活躍できるよう、人材育成のための事業を進める必要がある。	A
26	子どもフェスタ運営事業 〔文化・生涯学習課〕	68	49	柏崎市子ども会連合会と協働し、子どもの心身の健康を増進し情操を豊かにすることを目指し、トライウオーク&こどもフェスタ、こどもスポーツフェスタ及び冬のこどもフェスタを開催した。 ・トライウオーク&こどもフェスタ 参加者118人(令和4(2022)年度：113人) ・こどもスポーツフェスタ 参加者87人(令和4(2022)年度：中止) ・冬のこどもフェスタ 参加者391人(令和4(2022)年度：147人)	○ 新型コロナウイルス感染症の5類移行で、従前に戻すのではなく、イベント内容を見直し、よりよい活動の場を提供することができた。また、体験活動や参加者相互の交流を通して、青少年の健全育成に寄与することができた。 ● 活発な事業実施を目指し、内容の改善や更新に取り組む。子ども会活動の活性化のために本事業を活用してもらえよう、地域の子ども会との連携を深める必要がある。	A

(3) 教育環境を充実させる
 ア 良好な教育環境の整備
 イ 教育現場のICT環境の充実

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
27	学力向上推進プロジェクト事業 [学校教育課]	4,437	3,992	学力向上推進員1名と指導主事3名による学校訪問を市内の全小・中学校に3回ずつ実施し、授業づくりについての指導・助言や良い実践の情報発信を行った。また、研修主任研修会を年3回実施し、児童生徒の学力向上に向けた各校の校内研究の充実に結び付けた。さらに、国語及び算数・数学の授業力向上に向けた小・中学校教職員向けの研修を実施した。また、県外の研究推進校視察（富山県堀川小、福井県敦賀市教育委員会等）の報告会では、先進的な取組について全小・中学校で情報共有し、各校の実践にいかせるようにした。	○ 12月実施の総合学力調査結果では、国語及び算数・数学の合計において、小学校では全国平均より3ポイント以上上回ることができた。中学校は全国平均より下回ったが、全校平均との比較が前年度より伸びている学校が11校中7校であった。 ● 授業、家庭学習及び学力調査を効果的に連動させるデジタル教材の有効活用について、更に学力向上に結びつくよう今後も推進していく必要がある。	A
28	環境衛生検査費 [学校教育課]	1,362	1,333	学校薬剤師による学校環境衛生定期検査及び学校給食衛生管理定期検査を実施した（全小・中学校及び学校給食共同調理場）。	○ 市立小・中学校及び学校給食共同調理場で適正に環境衛生検査を実施し、健全な教育環境が保たれた。 ● 健全な環境を維持するために検査を継続する必要がある。	A
29	学区等審議会経費 [教育総務課]	2,126	2,105	市立小・中学校の通学区の再編や学校の再配置について、教育委員会の諮問に対して調査や審議が行われ、教育委員会へ提出された。 ・委員数 20名 ・任期 令和4(2022)年4月1日～令和6(2024)年3月31日 ・審議会 12回 ・学校訪問 5校 ・意見拝聴会 6回	○ 令和3(2021)年12月に教育委員会が策定した市立小・中学校学区再編方針のうち、令和8(2026)年度に示した日吉小及び中通小の統合と、剣野小、鯨波小及び米山小の統合について、教育委員会からの諮問どおり、令和5(2023)年12月26日に学区等審議会から答申を受領することができた。 ● 令和8(2026)年度の統合に当たり、円滑な移行を目指し、課題等の検討及び調整を行うため、統合準備委員会を設置する。	A
30	奨学金貸付事業 [教育総務課]	38,091	38,072	経済的な理由により大学・短期大学・専修学校（専門課程）への就学が困難な学生に学資の貸付けを行った。 ・令和5(2023)年度貸付者総数 56名（令和4(2022)年度:64名） ・令和5(2023)年度新規貸付者 21名（令和4(2022)年度:13名） うち、大学等在学生（編入生含む。）1名（令和4(2022)年度:2名）	○ 新規貸付者21名を含む56名に貸付けをし、教育の機会均等の向上が図られた。また、令和3(2021)年度から他の奨学金制度との併給を可能にし、大学等在学生の申請を認めた。これにより、2名の大学等在学生から申請があり（うち1名は最終的に辞退）、さらに幅広く学生への支援を行うことができた。 ● 学生が更に利用しやすい制度とするために、社会情勢等に合わせた制度の見直しを行っていく。	A
31	学校管理運営費 (校舎戸締り等委託業務経費) [教育総務課]	3,439	3,318	令和3(2021)年度より、教職員の働き方改革及び多忙化解消の一環として開始した事業であり、令和5(2023)年度は小学校5校及び中学校5校をモデル校に選定し、教職員の負担となっていた日直業務を民間に委託するとともに、日直業務員が退校を促すことにより長時間勤務の改善を図った。	○ 日直業務員の導入により、午後7時30分完全退勤を推進し、教職員の働き方改革及び長時間勤務の改善が図られた。 ● 日直業務員を配置していない学校について、退勤時間が遅くなる傾向がみられる。また、委託先の日直業務員の継続的な確保が厳しい状況である。	A

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
32	学校用務員委託事業 〔教育総務課〕	116,451	116,451	用務員業務を民間2社に委託し、全ての小・中学校に用務員を配置している。 令和3(2021)年8月1日から令和6(2024)年7月31日までの3年間の長期継続契約である。	○ 学校用務員業務を適正かつ確実に、学校教育環境の維持が図られた。 ● 学校及び受託者と連携しながら、用務員の資質の維持・向上を図り、学校教育環境の適切な管理を行っていく。	A
33	通学支援事業 〔教育総務課〕	118,173	101,015	・遠距離通学の児童生徒に対して、通学支援（スクールバスの運行や通学定期券の支給）を実施した。登下校のほか、校外学習等の移動手段として利用した。 ・スクールバスの校外利用申請の受付及び運行手配業務を運行委託事業者に委託した。 【通学距離基準】 ・小学生：片道 2.5km ・中学生：片道 夏期4.5km、冬期3.5km 【通学支援を受けた人数】 ・令和5(2023)年度 583名 ・令和4(2022)年度 611名	○ スクールバスの運行計画を毎年度見直すことにより、遠距離通学の児童生徒の負担軽減が図られている。また、スクールバス校外利用申請受付業務を運行委託事業者に委託したことで、業務の効率化が図られている。 ● 児童生徒の安全な通学支援を行うために、適正な運行管理を行うとともに、車両を良好な状態で運行するため、老朽化した車両を計画的に更新する。また、学校の意見を聞きながら児童生徒が通学しやすい環境を整備する必要がある。	A
34	情報機器管理費 〔教育総務課〕	208,296	208,295	包括アウトソーシング（令和5(2023)年4月1日～令和10(2028)年3月31日）を外部委託し、教務室、教室等の情報環境の整備及び情報機器の保守管理を効率的に実施した。	○ 教育におけるICTの促進及び校務の効率化が図られた。また、GIGAスクール構想を推進するため、引き続きICT支援室を設置し、児童生徒及び教職員が情報機器を有効に活用する支援を行うことができた。 ● ICTを活用した情報教育の更なる促進のため、必要な情報機器等の活用方法や支援策をICT連絡会議で検討する必要がある。	A
35	小学校施設整備事業 〔教育総務課〕	212,928 繰越明許 （※） 228,500	86,526 繰越明許 152,104	二田小学校及び鯖石小学校のトイレ改修工事、鯖石小学校及び田尻小学校の体育館照明改修工事、大洲小学校体育館外壁改修工事並びに旧石地小学校体育館解体工事を実施した。 現年度予算のうち、令和6（2024）年度予定工事で国の令和5（2023）年度補正予算の交付金事業採択を受けたものについて、令和5（2023）年度に前倒し補正し、令和6（2024）年度予算に明許繰越する。	○ トイレ洋式化、体育館照明のLED化及び体育館外壁改修により、児童にとって安全・安心で、かつ、良好な教育環境の整備ができた。 ● 老朽化により、早急な改修を要する施設が増加していることから、児童の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備を継続して進めていく必要がある。	A
36	荒浜小学校改築事業 〔教育総務課〕	1,517,910 通次繰越 （※） 447,090	0 通次繰越 376,723	老朽化した校舎棟を改築するため、令和4(2022)年度に行った実施設計に基づき、改築工事（I期工事）、工事監理を実施した。 現年度予算のうち、令和6（2024）年度予定工事で国の令和5（2023）年度補正予算の交付金事業採択を受けたものについて、令和5（2023）年度に前倒し補正し、令和6（2024）年度予算に通次繰越する。	○ 築後50年以上が経過し、老朽化した校舎棟の改築事業を進め、安全・安心で、かつ、快適な教育環境を整備するとともに、適正規模の学校施設となるよう計画的に改築を進めることができた。 ● 実施設計に基づき、令和5(2023)・6(2024)年度に改築工事を行い、その後の既存校舎解体工事やグラウンド改修工事の設計等を計画的に行っていく必要がある。	A

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
37	中学校施設整備事業 [教育総務課]	261,500 繰越明許 93,700	149,755 繰越明許 72,081	第一中学校及び北条中学校のトイレ改修工事、瑞穂中学校の食堂改修・受水槽改修工事、松浜中学校の外構フェンス等設置・車庫棟改築工事並びに西山中学校の空調・受変電設備改修工事を実施した。 現年度予算のうち、令和6(2024)年度予定工事で国の令和5(2024)年度補正予算の交付金事業採択を受けたものについて、令和5(2023)年度に前倒し補正し、令和6(2024)年度予算に明許繰越する。	○ トイレ洋式化、食堂改修(防水・LED化)、外構フェンス、設備関係等の改修を実施したことにより、生徒にとって安全・安心で、かつ、良好な教育環境の整備ができた。 ● 老朽化により、早急な改修を要する施設が増加していることから、生徒の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備を継続して進めていく必要がある。	A
38	中学校グラウンド補修事業 [教育総務課]	257,815	11,567	瑞穂中学校グラウンドの劣化した表面舗装と排水機能を改善するための改修工事の設計を実施した。 現年度予算のうち、令和6(2024)年度予定工事で国の令和5(2023)年度補正予算の交付金事業採択を受けたものについて、令和5(2023)年度に前倒し補正し、令和6(2024)年度予算に通次繰越する。	○ 改修工事に必要な測量設計を実施し、安全・安心な屋外教育環境整備のための準備ができた。 ● 経年劣化により、早急な改修を要する施設が増加していることから、生徒の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備を継続して進めていく必要がある。	A
39	学校施設長寿命化事業 [教育総務課]	472,000	12,980	鏡が沖中学校大規模改修工事の実設計を行った。 現年度予算のうち、令和6(2024)年度予定工事で国の令和5(2023)年度補正予算の交付金事業採択を受けたものについて、令和5(2023)年度に前倒し補正し、令和6(2024)年度予算に通次繰越する。	○ 老朽化部分の大規模改修工事の設計を実施し、安全・安心な教育環境整備のための準備ができた。 ● 生徒の安全・安心、また、災害時の地域住民の避難所・避難場所としての機能を果たす学校施設とするため、「学校施設等長寿命化計画(個別施設計画)」に基づいた計画的な改修を進めていく必要がある。	A
40	東中学校改築事業 [教育総務課]	318,521 通次繰越 669,548 事故繰越 (※) 20,449	42,118 通次繰越 406,780 事故繰越 (※) 20,449	・実施設計に基づき、令和5(2023)年・令和6(2024)年継続事業の旧校舎等解体(I期)工事及びグラウンド整備(I期)工事を実施した。 ・事故繰越の太陽光発電設備設置工事を実施した。 ・部室倉庫棟新築工事を実施した。 ・現年度予算のうち、令和6(2024)年度予定工事で国の令和5(2023)年度補正予算の交付金事業採択を受けたものについて、令和5(2023)年度に前倒し補正し、令和6(2024)年度予算に通次繰越する。	○ 旧校舎の解体工事及びグラウンド整備工事を設計に基づき計画的に進めることができた。 ● 令和6(2024)年度も引き続き、旧校舎の解体工事及びグラウンドの整備工事を各設計に基づき計画的に行う必要がある。	A
41	給食施設整備事業 [教育総務課]	繰越明許 870,000	繰越明許 809,957	・北部地区学校給食共同調理場大規模改修工事を実施した。 ・共同調理場統廃合計画により、南中学に併設する南部地区学校給食共同調理場を鏡が沖中学校に併設する枇杷島地区学校給食共同調理場へ、第一中学校に併設する中央地区第二学校給食調理場を瑞穂中学校に併設する北部地区学校給食共同調理場へそれぞれ統合し廃止した。 ・枇杷島地区学校給食共同調理場が柏崎の南部地域の全ての学校を担当することとなったことから、南部地区学校給食共同調理場へ名称変更した。	○ 北部地区学校給食共同調理場を大規模改修工事により整備し、全ての調理場施設が国の衛生管理基準に沿ったドライ施設(※)となった。 ● 共同調理場の調理機器が、故障や老朽化により安全性が損なわれる事が無いように、点検を実施し、老朽化が著しい機器は計画的に更新を図る必要がある。	A

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
42	給食施設管理経費 [教育総務課]	41,770	36,334	学校給食共同調理場に対して国の定めた衛生管理基準に沿った施設管理及び環境整備を行った。	○ 学校給食の衛生管理基準に沿った施設管理ができた。 また、統廃合計画により調理場施設が8施設から6施設へ集約したことから、施設使用効率の上昇や、経費削減が進んだ。 ● 現行の衛生基準に則した施設整備を維持し、施設の統廃合及び受配校の見直しを進める必要がある。	A
43	給食業務運営経費 [教育総務課]	308,088	301,288	共同調理場の維持管理及び運営に必要な業務の専門業者への委託、受託者の適正な業務履行の確認及び日常的な情報共有、調理業務従事者への腸内細菌検査等を適正に実施しながら、市内の小・中学校及びはまなす特別支援学校に安全・安心な学校給食の提供を行った。	○ 児童生徒に安全・安心な給食の提供が滞りなく行われた。 ● 共同調理場の統廃合及び受配校の見直しを確実に進め、効率化や経費削減に努める必要がある。施設設備に係る修繕は頻度が高くなっているため、設備の更新を考える必要がある。	A
44	学校給食費 [教育総務課]	405,008	376,996	学校給食費が公会計であることから、市が保護者から直接学校給食費を徴収し、給食食材の購入及び支払を行っている。また、急激な物価高による食材費高騰にも公費で対処でき、安定した学校給食の運営ができた。	○ 給食費公会計化により教職員の学校給食関連事務が軽減された。 また、公会計であるため、物価高による食材費の高騰に対する対処が素早くでき、保護者の負担軽減ができた。 ● 学校給食費の未納が一定数あることから、児童生徒への影響を考慮しつつ、学校給食費未納者への有効な対策を行う必要がある。	A

2 学びを通じて地域の「たくましさ」をはぐくむ

【第五次総合計画・後期基本計画における施策の方針】

誰もが生涯を通じて、共に学び、学んだことを活かして活躍できる環境をつくるため、いつでも、どこでも学べる機会を創出するとともに、様々な機関・施設・団体と連携しながら、多様な生涯学習ニーズに対応する学習内容を提供します。

図書館や博物館は、生涯学習に活用される社会教育環境の充実に取り組むとともに、ICTの進展に対応できるよう施設や設備の改修を計画的に行います。学びの成果を地域社会における様々な地域活動、教育活動に活かせるよう、多様な主体と連携した生涯学習を推進します。

◆ 主な事業

文化・生涯学習課

○ マナビステージ運営事業

令和5（2023）年度は、参加者及び来場者共に快適な環境の提供を目指して会場レイアウトを大幅に改善し、11月11日（土）、12日（日）に市民プラザで開催した。ステージ発表では19団体（令和4(2022)年度21団体）、作品展示発表では、7団体（令和4(2022)年度6団体）の参加となった。会場の変更に伴い、作品展示発表会場の来場者が増加し、総来場者数は延べ960人（令和4(2022)年度836人）となった。公民館（学習プラザ等）での日頃の学習成果を発表することで、活動している団体の目標（励み）にもつなげることができ有効であった。

○ 二十歳のつどい運営事業

若者の門出を祝福するとともに、成人としての自覚と社会参加を促すことを目的として、令和5(2023)年5月3日(水・祝)に開催した。開催に当たり、参加者に1週間前からの検温や体調確認を求め、参加者にとって安全・安心な開催となるよう、新型コロナウイルス感染症対策を十分講じた。対象者845人に案内状を送付し、当日は620人の参加があった。家族観覧者は173人であった。市を挙げて若者を祝福するとともに、ふるさと柏崎への愛着や誇りを感じてもらうことにつながった。

○ 公民館講座運営事業

社会経験豊富なシニア世代が興味を持って取り組める多種多様なメニューのシニアコース、全年齢を対象とした幅広いジャンルのエイジレスコース及び小学生の夏休みや冬休みに合わせた創作活動や実験を行う子ども向けコースを設け、講座を開催した。各年代のニーズに合わせ、交流を通じて生きがいや学ぶ楽しさを見出す学習機会を提供することができた。シニアコースは35講座延べ49回開講し、延べ参加人数695人、エイジレスコースは39講座延べ59回開講し、延べ参加人数645人、子ども向けコースは16講座延べ16回開講し、延べ参加人数256人であった。

図書館

○ イベント・講座開催

10月に「ひとはこ図書館」を柏崎木材協会と共催で実施し、市長・教育長のほか市民14名の参加があった。1月には「中村文庫 良寛いしぶみ拓本展」を開催した。良寛関係石碑拓本の掛軸約60点を中心に、歌集「木端集」や良寛関係書籍等を陳列し、292名が来場した。これらのイベントにより、個性を形成する機会や地域文化に触れる機会の提供ができた。読み聞かせボランティアの育成・研修を行い、読書活動を推進することができた。はじめての絵本セミナー「えほんライブ」に29組59名、読み聞かせボランティアスキルアップ講座に15名の参加があった。ブックスタート事業として乳児304名に絵本608冊を配付し、子どもが絵本に触れ保護者が読み聞かせを行う環境づくりを行った。感染防止のため検診会場に図書館職員1名が同席し、事業の簡単な説明と案内書類の手渡しを行った。また、ブックスタート事業フォローアップとして「ふれあいブックスタート」を毎月開催した。保護者アンケートでも「大変良い」「良い」が計100%、絵本を「とても活用している」「活用している」が計100%の評価を得た。

博物館

○ 博物館振興事業

他機関等と連携を図りながら、市民共有の財産である収蔵資料等を活用した市固有の地域資産や文化を発信する企画展等を行い、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与することができた。また、学習指導要領に沿った取組では、毎年度テーマを変えながら「むかしのくらしと道具」展を開催している。令和5（2023）年度は、小学校3年生の学習の場等として11校の利用があり、多くの児童が学習の機会を得ることができ有効であった。なお、展示解説や体験では、教育効果を考慮して児童を少人数グループに分け、ボランティアガイドも登用しながら巡回型で行う等の取組を行い、学校の授業時間に支障なく実施することができた。

○ プラネタリウム管理運営費

定期投影等では子どもから大人まで楽しめる番組を選定し、学習投影では内容の充実を図ることにより、天体学習の興味や理解を深めてもらうことができた。また、「熟睡プラ寝たリウム」といったイベント投影は、季節ごとに合計4件を実施することができた。

(1) 学びの機会を充実させる
 ア 多様な学習・交流機会の提供
 イ 社会教育環境の充実

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
45	マナビステージ運営事業 [文化・生涯学習課]	590	590	<p>柏崎公民館（市民プラザ）等で生涯学習活動を行っている団体で実行委員会を組織し、11月11日（土）、12日（日）にマナビステージを開催した。</p> <p>参加団体 ステージ発表 19団体（令和4(2022)年度：21団体） 作品展示発表 7団体（令和4(2022)年度：6団体）</p> <p>入場者数 ステージ発表 509人（令和4(2022)年度：490人） 作品展示発表 451人（令和4(2022)年度：346人）</p>	<p>○ 会場レイアウトの改善を実行委員会で検討し、開催することができた。 ステージ発表及び作品展示部門ともに新規に2団体の参加を得ることができた。</p> <p>● 学習の成果を発表する場及び各種団体の交流の場として、今後も継続して開催する。 また、参加団体が固定化されないよう、新規団体の参加を促していく必要がある。</p>	A
46	社会教育委員会議運営事業 [文化・生涯学習課]	350	201	<p>第四次生涯学習推進計画（計画年度令和4～7年度）の進行状況を報告し、内容について審議を行った。また、自主研修として取り組んだ「公民館分館との連携」について検討を行った。</p> <p>・委員数13名（定員17名以内） ・会議の開催回数 2回 ・第四次生涯学習推進計画の進行審議 ・研修会、研究大会の参加</p>	<p>○ 第四次生涯学習推進計画の進行管理のため、社会教育委員から審議をしていただいた。 県、中越の研修会に参加するとともに他市の情報を収集し、社会教育や生涯学習の知識を高めることにつながった。 自主研修では「公民館分館との連携」に取り組み、生涯学習の推進を図るための検討材料とした。</p> <p>● 第四次生涯学習推進計画の実行性を高めるため、定期的、継続的に社会教育委員会議で審議行う必要がある。 また、各種研修会に参加し、他市の取組状況など情報をより一層収集し、情報交換を進めていく必要がある。</p>	A
47	市民プラザ管理事業 [文化・生涯学習課]	68,487	65,908	<p>ゴミ庫ドアの修繕や温水洗浄便座の交換等を行い、適切に管理した。</p> <p>・年間利用者数 学習プラザ 44,390人（令和4(2022)年度：36,883人） 交流プラザ 24,495人（令和4(2022)年度：24,225人） 計 68,885人（令和4(2022)年度：61,108人）</p>	<p>○ 修繕を実施し、施設の適正管理に努めた。</p> <p>● 竣工後23年が経過し、老朽化が進んでいるため、計画的な修繕計画を策定する必要がある。 また、学習や交流の場所として利用してもらうよう、施設の適正管理に努める必要がある。</p>	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
48 二十歳のつどい [文化・生涯学習課]	1,219	1,175	<p>若者の成人としての門出を祝福するとともに、成人としての自覚と社会参加を促すことを目的として、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、令和5(2023)年5月3日(水・祝)に成人式を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加対象者 845人 (令和4(2022)年度:818人) ・参加者 620人 (令和4(2022)年度:564人) ・家族観覧者 173人 (令和4(2022)年度:137人) 	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の5類移行直前であったため、参加者に1週間前からの検温や体調確認を求め、参加者にとって安全・安心な開催となるよう対策を講じた。また、会場での密を避けるため、参加者及び家族観覧者の動線を分ける等の対策も行った。</p> <p>● 若者の成人としての門出を祝福し、成人としての自覚と社会参加を促す機会として、今後も継続して開催する。また、他県及び他市の開催状況を注視し、開催方法の検討及び運営の工夫に取り組む必要がある。</p>	A
49 公民館講座運営事業 [文化・生涯学習課]	2,632	2,034	<p>社会経験豊富なシニア世代が興味を持って取り組める多種多様なメニューのシニアコース、全年齢を対象とした幅広いジャンルのエイジレスコース及び小学生の夏休みや冬休みに合わせた創作活動や実験を行う子ども向けコースを設け、講座を開催した。</p> <p>【シニアコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5(2023)年度 (講座数は種類) 講座 …開催35講座(延べ49回) (令和4(2022)年度:開催24講座(延べ51回)) 延べ人数 …695人 (令和4(2022)年度:788人) <p>【エイジレスコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5(2023)年度 (講座数は種類) 講座 …開催39講座(延べ59回) (令和4(2022)年度:37講座(延べ65回)) 延べ人数 …645人 (令和4(2022)年度:629人) 託児サービス…5人 (令和4(2022)年度:2人) <p>【子ども向けコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5(2023)年度 (講座数は種類) 講座 …開催16講座(延べ16回) (令和4(2022)年度:11講座(延べ15回)、中止1講座) 延べ人数 …256人 (令和4(2022)年度:150人) 託児サービス…7人 (令和4(2022)年度:1人) 	<p>○ 各年代のニーズに合わせて、交流を通じて生きがいや学ぶ楽しさを見いだす学習機会を提供することができた。また、主にエイジレスコースでSNSを活用し、多くの市民に情報を届けることができた。</p> <p>● より多くの方々に学習機会を提供するため、引き続き講座内容、周知方法等を工夫し、魅力ある講座にしていく必要がある。また、エイジレスコースでは若年層と男性の受講率を増加させるために、引き続きSNSを活用して効果的な情報発信を行ったり、新たな講座内容の企画をしたりすることを検討していく必要がある。</p>	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
イベント・講座開催費 [図書館]	1,976	1,585	企画展の実施 【中村文庫「良寛いしづみ拓本展」】 令和4(2022)年度に中村文庫の資料として寄贈いただいた良寛関係資料約370点を展示し、292人の入場者があった。 イベント・講座 【土曜日は絵本の時間。】 ・12回 参加者延べ126人（令和4(2022)年度：12回参加者延べ125人） 【映画上映会】 ・53回 入場者476人（令和4(2022)年度：66回 入場者431人） 【キッズシアター等特別上映会】 ・7回 184人 【雑誌リサイクル市】 ・2回 128人 【駅前公園イベント】 ・移動図書館車参加（商業観光課との連携）31人 第二次柏崎市子ども読書活動推進計画 関係課と連携し施策に取り組み、その進捗状況について図書館協議会に報告した。 【外部団体との連携】 ・ひとはこ図書館（柏崎木材協会との共催）14人 【出張おはなし会】 絵本ボランティアと職員による幼稚園・保育園等での実施。 ・5回 参加者延べ29人（令和4(2022)年度：5回参加者延べ40人） 【絵本・子どもフェスタ2023】 ・きょうは一日えほんの日 2回 延べ143人 ・人形劇「はれときどききぶた」 110人（令和4(2022)年度：101人） 【子ども司書養成講座】 中通小6人・内郷小7人が受講（令和4(2022)年度：半田小11人・内郷小7人） 【子ども図書館員体験】 2回 17人 【読み聞かせボランティア等の育成・研修】 ・はじめての絵本セミナー「えほんライブ」 参加者… 29組59人（令和4(2022)年度：24組49人） ・絵本の読み聞かせボランティア交流研修会 参加者 15人（令和4(2022)年度：15人） 【ブックスタート事業】 職員1名が4か月児集団健診に同席し事業説明。希望絵本2冊を郵送または来館時に手渡しした。 対応者… 304人、608冊（令和4(2022)年度：361人、722冊） 【ふれあいブックスタート】 ブックスタートのフォローアップとして開催 参加者… 合計12回、147人（令和4(2022)年度：合計12回、49人） 【ブックスタートボランティア交流研修会】 登録ボランティアが少数であるため中止	○ 企画展の実施 日頃見ることができない貴重な良寛関係資料を一堂に展示し、大変好評であった。また、資料の活用にもつながった。 ○ イベント・講座 前年度を上回る事業を実施し、社会教育環境の充実に寄与した。また、他課や外部団体と連携しながら開催することができた。 ○ 第二次柏崎市子ども読書活動推進計画 各関係機関・団体との連携により、子どもの読書習慣づくりと読書環境の整備を推進することができた。また、読書活動を推進するための各種事業を展開することができた。 ○ ブックスタート 健診会場での職員による対面説明だけでなく、フォローアップ事業として、図書館において「ふれあいブックスタート」を毎月開催することで、乳児が絵本に触れる機会、保護者の読み聞かせへの意識啓発に寄与することができた。 この事業について保護者アンケートを実施、「大変良い」96%（前年度95%）、「良い」4%（前年度5%）、絵本の活用の問いには「絵本をかなり活用している」73%（前年度51%）「絵本を活用している」27%（49%）と、それぞれ良い評価を得ることができた。 ● ふれあいブックスタート事業を更に活性化し、親子での読み聞かせの大切さや家庭での読書習慣の必要性を発信する必要がある。 ● ブックスタートボランティアの確保と養成が必要である。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
51 博物館振興事業 [博物館]	1,827	1,608	<p>・春季企画展「軽井川南遺跡群総まくりー古代の鉄づくりを知るー」 4/22～5/21 (入場者4,024人)</p> <p>・第30回動植物スケッチ・写真展 6/11～6/25 (入場者1,725人)</p> <p>・夏季企画展「日本刀 その技と美と歴史」 7/22～8/20 (入場者4,694人)</p> <p>・秋季企画展「鍋屋町式土器ー縄文前期の土器たちが語るものー」 10/14～11/19 (入場者4,197人)</p> <p>・冬季収蔵資料展「むかしのくらしと道具ー米づくりを支えたモノたちー」 翌1/4～3/10 (入場者2,953人)。</p> <p>・各企画展等では、講演会・展示解説等の関連行事を実施</p> <p>・その他にも共催事業を実施したほか、エントランスホールにて各種のミニ展示を実施</p> <p>延べ開催日数 155日間 延べ入場者数 17,593人</p> <p>※令和4(2022)年度 延べ開催日数 174日間 延べ入場者数 22,431人</p>	<p>○ 企画展等では当館収蔵資料の活用に加え、他機関等の協力を得ながら連携し、多様な学習機会の提供や理解を深める取組を実施することができた。</p> <p>なお、冬季収蔵資料展「むかしのくらしと道具」では、柏崎刈羽地域における小学校3年生の学習の場として11校の利用があり、学校教育活動に寄与することができた(令和4(2022)年度は14校)。</p> <p>● 市民の教育、学術等に寄与する教育施設として、今後も博物館資料を適切に収集、保管し、市民ニーズ等に対応した展示や解説等の学習機会を提供していくことが必要である。</p>	A
52 プラネタリウム管理運営費 [博物館]	8,106	7,906	<p>・定期投影では、星空解説と「クレヨンしんちゃん宇宙からの来訪者」(通年)、「ISS(国際宇宙ステーション)からの眺め」(4月)、「銀河の渚で」(5～8月)、「脱出のプラネタリウム」(6～3月)、「スペースコロニー」(9～10月、12～翌3月中旬)、「ダークユニバース」(11月)及び「ヤドカリくん、ほしをみに」(ゴールデンウィーク・春休み)を投影した。</p> <p>・ゴールデンウィークイベント投影「キッズタイム」及び「キッズプラネタリウム」(9回408人)、夏季プラネタリウムイベント投影「星空入門ーわくわく!惑星のひみつ」講師:新潟工科大学工学部工学科准教授 秋山永治氏(博士 天文学)(1回60人)、秋季プラネタリウムイベント投影「熟睡プラネタリウム」(4回128人)並びに冬季プラネタリウムイベント投影「クリスマスイベント」(4回145人)を実施した。</p> <p>・「よるの博物館」(未就学児と家族対象のイベント)でプラネタリウムを利用した投影を実施した。(2回525人)</p> <p>・小・中学校の学習投影にも対応した。</p> <p>・教育センター・柏崎天文同好会と連携し、星空観察会を3回(合計21組45人)実施した。</p> <p>定期投影 178回 団体投影・イベント投影等 68回 学習投影 38回 計284回</p> <p>入場者 7,210人 ※令和4(2022)年度 301回 6,403人</p>	<p>○ 定期投影等では、子どもから大人まで楽しめる番組を選定し、天文への興味や理解を深めてもらうことができた。</p> <p>また、「熟睡プラネタリウム」などのオリジナル企画を季節ごとに合計4件実施することができた。</p> <p>さらに、学習投影では、小学校(4年生16校16回投影、6年生13校14回投影)及び中学校(3年生6校7回投影)が理科の天文学習で利用し、学校教育活動に寄与することができた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、座席制限を解除したため、全体の投影回数は前年度を下回ったが、入場者数は上回った。</p> <p>「よるの博物館」でのプラネタリウム利用など、新たな試みも実施した。各種の取組により、柏崎の星空を解説し、星空を楽しめる機会を提供することができた。</p> <p>● 学習投影や柏崎の今夜の星空解説等を通じた天文学習を継続するとともに、新番組を組み込みながら、今後もリニューアルで導入した新型機器を有効に活用する企画を行う必要がある。</p>	A

(2) 家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する

ア 地域づくりへの学習成果の活用

イ 様々な主体との連携による生涯学習の充実

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
53 市民大学運営事業 [文化・生涯学習課]	1,068	735	市民が学ぶ喜びや楽しみから心の豊かさや生きがいを見出すことを目的に、市内2大学と連携しながら多岐にわたる分野の講座を開催した。 令和5(2023)年度(講座数は種類) 講座…開催14講座(延べ32回) (令和4(2022)年度:13講座(延べ32回)) 延べ人数…629人(令和4(2022)年度:554人)	○ 市民のニーズに合わせた講座を、市民公募の企画運営委員と共に企画検討し、開催することができた。また、日本における第一人者を講師に招へいし、参加者の幅広い学びにつなげることができた。 ● より多くの方々に学習機会を提供するため、若年層向け、高齢期向けなどターゲットを明確にし、開講時期を考慮しながら魅力ある講座を引き続き検討する必要がある。あわせて、周知方法等を工夫する必要がある。	A

3 スポーツを通じた「たくましさ」をはぐくむ

【第五次総合計画・後期基本計画における施策の方針】

市民がそれぞれのライフステージに応じたスポーツに接し、地域づくり・健康づくり・生きがいをづくりにつながるよう、福祉、介護、保育、地域、教育などの分野を超えた連携を図ります。

東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に取り組んだホストタウン事業や障がい者スポーツ啓発事業を更に深めていきます。

各種競技団体との連携を強化し、優れた競技者の養成と指導者の確保により、全国や世界で通用する競技者を育てます。一方で、学校の部活動の再編に的確に対応し、競技の普及、競技力の向上や強化に向けて取り組みます。

未就学児童と小学生及び保護者を対象に、スポーツへの関心の向上と競技者育成のきっかけづくりを推進します。

体育施設は、少子高齢化による競技者人口の推移を踏まえ、時代の要請に対応した施設の統合や複合化を検討します。

◆ 主な事業

スポーツ振興課

○ スポーツ事業支援経費

プレゴールデンエイジ（3～8歳）（※）及びゴールデンエイジ（9～12歳）（※）の子どもたちを対象としたSOMPOボールゲームフェスタを開催した。また、親子で運動あそび教室や体力測定会を開催したことで、子どもたちやその保護者に運動の楽しさ、大切さを感じてもらうことができた。

○ 水球のまち推進事業

ホストタウン事業（セルビア共和国、モンテネグロの水球代表チーム合宿）やアジア圏をはじめとする海外チームの合宿受け入れたことで、国内外に水球の聖地としての知名度が向上し、国際交流にもつながった。また、参加型イベント「海で水球in柏崎」を開催したことで、スポーツによる交流人口の拡大につながった。

(1) スポーツによる地域づくりや生きがいをづくりを進める

ア ライフステージに応じたスポーツの推進

イ スポーツによる交流人口の拡大

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
市民スポーツ大会経費 [スポーツ振興課]	4,515	3,753	<p>スポーツ推進委員会を中心に地区体育協会や子ども自然王国（樹生態計画研究所）と連携してスポーツ行事を行った。</p> <p>実施事業 スポーツレクリエーショングランプリは6種目を1日2種目ずつ、計3回実施、参加者224人（ふらば～るバレー20人、ポッチャ58人、ペタンク21人、モルク44人、カローリング39人、スポーツ吹き矢42人） ・市民スキー・スノーボードスクール参加者45人 ・ウォーキングイベント、参加地区体協10地区</p> <p>（令和4(2022)年度実績） スポーツレクリエーショングランプリは5種目を1日1種目ずつ、計5回実施、参加者295人（グラウンドゴルフ40人、ペタンク51人、ポッチャ63人、ふらば～るバレー63人、カローリング78人） ・市民スキー・スノーボードスクール参加者54人 ・ウォーキングイベント、参加地区体協9地区</p>	<p>○ ニューススポーツなどの各種スポーツ行事等の取組を通じて、スポーツを親しむきっかけづくりの場を提供したことで地域での交流を深めることができた。</p> <p>● 引き続き市民が気軽にスポーツイベントができるよう、スポーツ推進委員や地区体育協会などとの連携が必要である。</p>	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
55 学校開放経費 [スポーツ振興課]	258	166	市内小・中学校31校の学校体育施設を開放した。利用登録団体192団体、延べ利用者数146,766人(令和4(2022)年度:利用登録団体196団体、延べ利用者数147,013人)	○ 学校体育施設を有効活用することで、運動する機会・場所を提供し、地域スポーツの振興ができた。 ● 市民が運動に親しむ機会を確保するため、学校体育施設の積極的活用を進める必要がある。また、利用方法について、申請方法や施設の鍵の管理など今後も検討が必要である。	A
56 スポーツ推進委員費 [スポーツ振興課]	4,469	4,234	69名のスポーツ推進委員が、地区体育協会などと連携し、派遣事業イベントを実施した。また、障がい者、外国人とのスポーツ交流も継続して行った。 実施事業 ・派遣事業イベント15事業、参加者768人(令和4(2022)年度13事業、参加者382人) ・ニュースポーツ&パラスポーツ体験会、参加者120人(令和4(2022)年度、参加者147人) ・外国人とのスポーツ交流会、参加者13人(令和4(2022)年度、参加者28人)	○ イベントを開催することで、障がい者や外国人も含めてスポーツを楽しんでもらい、交流する機会を提供した。 ● 地域でのスポーツ活動の普及を図り、その活動を通じて子どもから高齢者までスポーツの楽しさを伝えていく必要がある。その一方で、推進委員の成り手が少ないことが課題であり、推進委員の知名度向上も必要である。	A
57 市町村生涯スポーツ振興事業 [スポーツ振興課]	460	358	学校運動部活動指導者派遣事業で、部活動外部指導者の指導報酬などを負担し、3校で4人の指導者を派遣した(令和4(2022)年度:4校5人派遣)。	○ 中学生に対して、競技の説明や練習方法等を確かかつ丁寧に指導できる部活動外部指導者を派遣することで、専門的な指導ができない教職員の負担軽減につながった。 ● 学校運動部活動指導者派遣事業と部活動指導員のバランスを取りながら、中学校部活動の地域移行について関係者と連携しながら対応していく必要がある。	A
58 スポーツ事業支援経費 [スポーツ振興課]	30,505	29,639	(一財)柏崎市スポーツ協会や地区体育協会、柏崎潮風マラソン実行委員会に補助金等を交付し、市民スポーツの普及や振興を図った。 実施事業 ・市民登山(八石山)、参加者31人(令和4(2022)年度、市民登山(八石山)、22人) ・市民ラージボール卓球大会、参加者63人(令和4(2022)年度、参加者59人) ・市民バスケットボール大会、参加者90人(令和4(2022)年度、参加者76人) ・スポーツフェスティバル2023、参加者400人(令和4(2022)年度、532人) ・スポーツ能力測定業務、参加者118人(令和4(2022)年度、参加者165人) ・SOMPOボールゲームフェスタ、参加者120人(令和4(2022)年度、事業なし) ・柏崎潮風マラソン参加者1,503人(令和4(2022)年度、出走者1,118人) ・かしわざき健康サポートカンパニー登録事業者数26事業所(令和4(2022)年度、20事業所)	○ 各事業を実施することで、競技スポーツの選手強化や健康づくりなどの生涯スポーツの振興に結び付けることができた。 また、プレゴールデンエイジ(3~8歳)及びゴールデンエイジ(9~12歳)向けの運動あそびや運動能力測定会等の各種体験事業を実施することで、子どもの運動機会の増加につながった。 ● スポーツ協会、地区体育協会などと連携を深め、引き続き市民が気軽にスポーツイベントができるよう、関係者との連携が必要である。また、子どもたちの健やかな健康を推進するため、幼児期における運動あそびの重要性を周知し、普及していく必要がある。	A

(2) 全国や世界に通用する競技者を育てる

ア 競技団体との連携の強化と指導者の養成

イ 競技力の向上に向けた取組の推進

ウ 施設の整備と改修

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
選手強化事業 [スポーツ振興課]	5,000	5,000	県の強化指定を受けている3競技（水球、陸上、ハンドボール）団体に対し、地域ジュニア競技スポーツクラブ育成事業補助金を交付し、小・中・高生の選手強化を図った。 水球 3,000,000円 ハンドボール 1,000,000円 陸上 1,000,000円	○ 新潟県の強化指定を受けている3競技（水球・ハンドボール・陸上）への支援を継続し、選手強化に努めた。 ・水球は、全日本ジュニア（U17）水球競技選手権、ブルボンウォーターポロクラブ柏崎（女子）4位、第11回アジアエージ（ニュークレーグティール 2023）にU17女子選手1名が参加、1位となった。 ・陸上は、令和5（2023）年度全国高等学校総合体育大会、女子七種競技11位となった。 ● 県の強化指定を受けている3競技の活動支援、選手強化を継続し、ジュニア世代の競技力の維持・向上を図る必要がある。	A
国際大会等出場激励事業 [スポーツ振興課]	200	180	スポーツで国際大会に出場する選手に激励金を贈り、スポーツ振興を図った。 ・令和5（2023）年度、水球3選手に激励金を贈った（令和4（2022）年度、水球4選手）。	○ 国際大会に出場した水球の3選手に激励金を贈った。 ● 競技スポーツの振興とスポーツ活動を激励するため、引き続き事業の継続が必要である。	A
スポーツ合宿誘致事業 [スポーツ振興課]	175	175	交流の促進と経済効果の拡大を図るため、スポーツ合宿誘致PR活動に対する負担金を拠出した。 スポーツ合宿実績36団体、延人数9,224人（令和4（2022）年度：25団体、延人数4,907人）	○ 県外へ向けたスポーツ合宿誘致のPR活動を推進したことで、スポーツによる交流や、経済効果の拡大につながった。 ● スポーツ合宿を誘致することによって、スポーツ施設の稼働率が低い平日の時間帯の利活用を図る必要がある。また、スポーツ合宿のターゲットの拡大（競技スポーツ以外の障がい者スポーツや生涯スポーツ）を検討する必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
62 体育施設管理運営経費 [スポーツ振興課]	409,249	388,487	体育施設の指定管理に関する基本協定に基づく業務（利用の許可に関する業務、施設の運営に関する業務、維持管理に関する業務、利用料金の徴収に関する業務ほか）を指定管理者が適切に行った。また、担当課でも施設を適切に維持管理していくために西山総合体育館や武道館の修繕を行った。 ・年間利用者数15施設分 499,474人（令和4(2022)年度：471,072人）	○ 利用者が安全に安心して施設を利用できるよう運営管理を行った。 西山総合体育館では非常用照明修繕を実施し、武道館では1階及び2階のトイレ修繕を実施したことで施設の適切な維持管理ができた。 ● 老朽化が進む体育施設であるが、計画的な改修や適時適切な修繕など適切な施設管理を行い、快適な利用環境を維持する必要がある。	A
63 陸上競技場整備事業 [スポーツ振興課]	71,500	2,800 繰越明許 68,700	陸上競技場を適切に維持管理するため、スタンドの耐震改修を実施した。工期の延長に伴い、令和6(2024)年度へ明許繰越する。	○ 当初の想定以上に老朽化が進行していたことから、工期を大幅に延長せざるを得ず、令和6(2024)年度へ繰越した。 ● 適切な維持管理を行うため、令和6(2024)年度も耐震改修工事を引き続き実施する必要がある。	—
64 県立柏崎アクアパーク整備事業 [スポーツ振興課]	11,000	10,949	県立柏崎アクアパークを適切に維持管理を行うため、50mプールの軒天改修工事を実施した。	○ 50mプールの軒天を改修工事することによって、施設の安全性の確保や利用者の利便性向上につながった。 ● 引き続き、安全、快適な施設を利用者に提供するため、新潟県と協議を行いながら適切な維持管理を行う必要がある。	A
65 武道館整備事業 [スポーツ振興課]	1,200	880	武道館を適切に維持管理を行うため、非常階段改修設計委託を実施した。	○ 改修設計委託をすることによって、施設を適切に維持管理するための準備を進めることができた。 ● 設計に基づき、令和6(2024)年度は改修工事を実施する。安全、快適な施設を利用者に提供するため、適切な維持管理を行う。	A
66 佐藤池野球場災害復旧事業 [スポーツ振興課]	17,266	17,266	佐藤池野球場を適切に維持管理するため、令和6年能登半島地震により破損したスタンドエキスパンションの入替などの改修工事を実施した。	○ 令和6年能登半島地震により破損した箇所を改修工事することによって、適切な維持管理が図られ、施設の安全性や利用者の利便性が確保された。 ● 引き続き、安全、快適な施設を利用者に提供するため、適切な維持管理を行う必要がある。	A

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
67	総合体育館災害復旧事業 [スポーツ振興課]	3,107	0 繰越明許 2,632	総合体育館を適切に維持管理するため、令和6年能登半島地震により破損したメインアリーナ、サブアリーナ、軽体操室の一部内壁の改修工事を実施した。工期の延長に伴い、令和6(2024)年度へ明許繰越する。	○ 当初予定していた以上に準備に時間を要したため、工期を延長し、令和6(2024)年度へ繰越した。 ● 引き続き、安全、快適な施設を利用者に提供するため、適切な維持管理を行う必要がある。	—
68	水球のまち柏崎推進事業 [水球のまち推進室]	20,323	20,159	柏崎水球事業実行委員会に負担金を支出し、各種大会の開催・合宿誘致事業、ホストタウン事業、水球を支援するまちづくり事業を行い、水球によるまちづくりを推進した。また、(一社)ウォーターポロクラブ柏崎に対して社会人水球クラブ強化補助金を交付し、活動を支援することで選手強化につなげた。 令和5(2023)年度実績 ・第6回えちゴソカップ、参加チーム13チーム(令和4(2022)年度、7チーム) ・第7回新潟レディースカップ、参加チーム11チーム(令和4(2022)年度、11チーム) ・アジア圏をはじめとする海外水球チームの合宿誘致、フィリピン男子代表チーム他7チーム、合計154人(令和4(2022)年度、シンガポール女子代表チーム他1チーム、合計39人) ・海の大花火大会への駐日セルビア共和国一等参事官、大使秘書招待 ・海で水球in柏崎、参加型イベントとして笠島海水浴場で開催し、県内外から8チーム参加(令和4(2022)年度、7チーム参加) ・水球日本代表として国際公式大会に出場した選手3人(令和4(2022)年度、4人)	○ ホストタウン事業(セルビア共和国、モンテネグロ水球代表チーム合宿)やアジア圏をはじめとする海外チームの合宿受け入れたことで、国内外に水球の聖地としての知名度が向上し、国際交流にもつながった。また、参加型イベント「海で水球」を開催したことでスポーツによる交流人口の拡大につながった。 ● 今後更なるアジア圏の水球チームのつながりを強めていくことが課題。「水球のまち柏崎」の世界的な知名度の向上を図る。併せて水球に通じた国際交流を推進していく必要がある。	A

4 歴史や文化の息づく「柏崎らしさ」をつくる

【第五次総合計画・後期基本計画における施策の方針】

GIGAスクール構想等を踏まえて、WEBミュージアムの充実、活用を進めます。指定文化財等基本調査を実施し、その成果をWEBミュージアムにより発信します。

本市の産業文化を学べる機会を提供し、保存と活用を進めます。

「柏崎市景観計画」に基づき、景観の向上に努めます。

良質な芸術作品の鑑賞機会や活動の場を引き続き市民に提供するとともに、新たなイベント等の開催を企画するなどして、市民の文化活動に対する興味や関心を深め、主体的に文化活動を行う人材の育成につながるよう支援します。

教育機関や芸術団体との連携により、広域的に文化交流を推進します。また、市民の文化交流や文化活動を支援し、周辺エリアのにぎわい創出につなげるように取り組みます。

◆ 主な事業

文化・生涯学習課

○ 文化会館管理運営事業

文化会館アルフォーレの管理に関する基本協定に基づく業務（利用の許可に関する業務、施設設置目的に掲げる事業の企画及び実施に関する業務、施設の維持管理に関する業務ほか）を指定管理者が適切に行った。年間利用者数118,584人(前年度比 7,313人増)。

○ 市美術展覧会事業

市民の日頃の創作活動の成果を発表する機会として、市美術展覧会を10月5日（木）から10月9日（月・祝）までソフィアセンターで開催した。出品者数208人(前年度比29人減)、作品展示数236点(前年度比31点減)、入場者数延べ2,075人(令和4(2022)年度は10日間開催で来場者数3,116人)

○ 文化振興支援事業

文化会館アルフォーレとの共催で、アルフォーレ劇場広場を会場とした野外おんがく堂2023を開催した。入場者2,398人、出演17団体。また、文化会館アルフォーレ、柏崎音楽協会、柏崎観光協会、柏崎地域国際化協会及び市の5団体で「古典を活かした柏崎地域活性化事業実行委員会」を組織し、「柏崎古典フェスティバル」4事業を実施した。アルフォーレ特選寄席「柳家小痴楽・桂宮治ふたり会」入場者 503人、浅野祥 津軽三味線コンサート入場者 123人、池辺晋一郎 音楽の不思議 ヒトにもビワにも家族がいます 入場者 207人、浅野祥 津軽三味線ワークショップ入場者 26人。

○ 文化振興事業

見る人すべてが一足早く春を感じる企画展として、柏崎の花 -Spring Collection 2024-を2月8日（木）から2月12日（月・振休）までソフィアセンターで開催した。花に関する絵画などの美術作品や美術品、生け花や雪割草など約150点を展示した。来場者数 延べ3,123人(令和4(2022)年度来場者数1,507人)

博物館

○ 綾子舞後継者育成事業

人口減少により伝統芸能の後継者不足が全国的な問題となっている中、伝承者養成講座と伝承学習の2本柱で後継者育成を継続している。その中で、伝承学習においては、新道小学校及び南中学校の児童・生徒を対象とした課外クラブとすることで参加者の確保に努め、令和5（2023）年度は、令和4(2022)年11月30日のユネスコ無形文化遺産への登録の効果もあり74名の参加を得ることができた。

○ WEBミュージアム推進事業

地域の文化、風土を学習できるよう、子ども向けWEBミュージアムを運用した。令和5（2023）年度で構築業者によるシステムのサポートが終了となったが、引き続き利用できるようにするため、後継業者にシステムを移行し、再編することができた。また、大人向けWEBミュージアムでは、新たに5件の指定文化財をデジタル高精細画像で撮影して公開した。

WEBミュージアムは社会科副読本に対応するなど、教育現場での利用促進が図られた。また、資料等のデジタル化を推進することができた。

○ 文化財保護管理費

文化財の保存と活用を図る取組の一つとして、指定文化財の歴史的・文化的価値を再確認するため、指定文化財等基本調査事業を継続し、令和5（2023）年度は合計7件の調査を行った。文化財の現状を記録するとともに、専門家による所有者への助言等を行い、保存意識を高めてもらうことができた。そのほか、史跡等に対する指定文化財周辺整備の実施、国指定文化財（建造物）の防災設備保守点検等に対する補助金交付等を行った。

(1) 歴史・文化を保全・活用し、継承する

- ア 伝統芸能の継承
- イ 歴史・文化資産の保存と活用
- ウ 産業文化や生活文化の保存と活用
- エ 景観まちづくりの推進

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
69 綾子舞後継者育成事業 [博物館]	1,709	1,363	「綾子舞」の後継者を育成するため、伝承学習及び伝承者養成講座を実施した。 「綾子舞伝承学習」は、伝承地を校区とする南中学校と新道小学校を対象に実施した。 期間 5/9～11/1、延べ10回開催（リハーサル、発表会含む） 参加児童生徒数 74人（令和4(2022)年度63人） 「綾子舞伝承者養成講座」は、2つの座元（下野、高原田）において実施した。 期間 5/16～10/26、延べ36回開催 延べ参加者数 930人（令和4(2022)年度778人）	○ 綾子舞保存振興会や学校などの関係団体と連携を図り、感染症対策を行いながら、郷土の伝統芸能を継承するための後継者を育成することができた。 ● 人口減少などの影響により、新道小学校及び南中学校の児童生徒を対象にした綾子舞伝承学習への参加者や指導者の継続的な確保が課題である。後継者育成を途絶えさせることなく確実に継続していくことが必要である。	A
70 文化財保護管理費 [博物館]	3,294	2,878	文化財の保存と活用を図る取組の一つとして、指定文化財の歴史的・文化的価値を再確認するため、指定文化財等基本調査事業を行った。そのほか、史跡等に対する指定文化財周辺整備の実施、国指定文化財（建造物）の防災設備保守点検等に対する補助金交付等を行った。 指定文化財等基本調査事業実施件数 絵画、彫刻、民俗文化財 合計7件 参考 国・県・市指定文化財 216件 国登録文化財 19件 合計235件 平成30(2018)年度から令和5(2023)年度まで 66件調査済み 令和6(2024)年度 10件調査予定 本事業以外の調査及び別事業調査済み 95件 要検討文化財 64件	○ 指定文化財等基本調査事業では、文化財の現状を記録するとともに、専門家による所有者への助言等を行い、保存意識を高めてもらうことができた。 ● 指定文化財の調査は長期に渡ることから、計画的な事業実施が必要となる。また、指定文化財には多様な分野があり、調査担当者の選任や調査方法の検討が必要である。 少子高齢化や過疎化等による文化資産継承の担い手不足に加え、生活様式の変容等が相まって、地域の生活習慣等が後世に引き継がれにくくなっている。	A
71 柏崎市内遺跡発掘調査事業 [博物館]	11,559	8,621	県営ほ場整備事業、市道改良工事、民間開発等に伴い、事前の試掘・確認調査など行った（試掘・確認調査4件、工事立会14件）。また、令和4(2022)年度に実施した試掘・確認調査などの報告書1冊（83ページ、300冊）を刊行した（報告書は令和6(2024)年に関係機関約290箇所配布予定）。	○ 試掘・確認調査の実施及び報告書を刊行して、埋蔵文化財保護をすることができた。 ● 県営ほ場整備事業対応のための調査経費が増加している。年度当初に予定した調査のほかに、緊急な対応を求められる場合がある。開発事業の計画変更によって、調査の内容も異なってくるため、本事業の計画の見直しが必要である。	A

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
72	都市整備関連遺跡調査事業 [博物館]	279	275	平成5(1993)年に本発掘調査を実施した藤橋東遺跡群の発掘調査報告書を作成した。	○ 藤橋東遺跡群発掘調査報告書の刊行する準備ができた。 ● 今後も市道改良工事に伴う発掘調査報告書を計画的に刊行し、調査成果を市民ニーズに応じて活用してもらうことにより、埋蔵文化財の理解を深めていくことが必要である。	A
73	県道関連遺跡調査事業 [博物館]	13,513	11,249	令和2(2020)年から令和4(2022)年に一般県道黒部柏崎線道路改築工事に伴い記録保存のための発掘調査を行った大字山本・長崎地内の西岩野遺跡の発掘調査報告書を作成した。	○ 年次計画どおりに作業を完了し、発掘調査報告書を刊行する準備ができた。 ● 発掘調査報告書を刊行するとともに、調査成果を市民へ公開する必要がある。	A
74	WEBミュージアム推進事業 [博物館]	6,733	6,721	地域の文化、風土を学習できるよう、子ども向けWEBミュージアムを運用した。また、大人向けWEBミュージアムでは、指定文化財等の資料を新たにデジタル高精細画像で撮影して公開した。また、構築業者によるシステムのサポートが終了となったので、後継業者にシステムを移行し、再編した。 ・デジタル高精細画像撮影件数 5件（うち指定文化財5件） ・WEBミュージアムアクセス件数 137,594件 <内訳> わたしたちの柏崎・特集ページ 74,037件 柏崎の偉人と文化財 19,043件 高精細デジタルアーカイブ 44,514件	○ 小学校の社会科副読本に対応するなど、教育現場での利用促進が図られた。また、資料等のデジタル化を推進することができた。さらに、サポート業者が変更となったが、引き続き利用できるように良好な状態でシステムを移行し、再編することができた。 ● 撮影費が高額であることから、単年度の新規更新件数は限定的であり、計画的に継続することが必要である。また、GIGAスクール事業により児童生徒のインターネット利用環境が充実したことから、学校でのWEBミュージアム活用促進が求められている。	A

(2) 市民の主体的な文化活動を支援する

ア 市民の文化活動への支援

イ 多様な文化交流の推進

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
75	文化会館管理運営費 [文化・生涯学習課]	210,467	205,325	文化会館アルフォーレの管理に関する基本協定に基づく業務（利用の許可に関する業務、施設設置目的に掲げる事業の企画及び実施に関する業務、施設の維持管理に関する業務ほか）を指定管理者が適切に行った。 ・年間利用者数 118,584人 (令和4(2022)年度：111,271人) ・アルフォーレ自主事業 来場者満足度98%	○ 新型コロナウイルス感染症対策を十分に行った上で、10件の鑑賞事業、2件の普及事業、4件の参加型事業、1件の市民文化活動支援事業、1件の賑い事業を実施し、「ウィズコロナ」を視野に入れた管理運営ができた。 ● 民間文化団体の減少が続くことから、市民の文化活動を後押しする企画の立案や、施設利用を促進する環境整備を行う必要がある。	A

	事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
76	産業文化会館管理運営費 〔文化・生涯学習課〕	74,232	72,089	産業文化会館の管理に関する基本協定に基づく業務（利用の許可に関する業務、施設設置目的に掲げる事業の企画及び実施に関する業務、施設の維持管理に関する業務ほか）を指定管理者が適切に行った。 ・年間利用者数 56,979人 (令和4(2022)年度:49,686人)	○ 新型コロナウイルス感染症対策に配慮しつつ各種カルチャー教室、文化講演会「松木安太郎講演会」をはじめ、5つの文化イベントを実施したことで昨年を上回る利用者数となった。また「柏崎トレインアクション」では、新たな試みとして駐車場にキッチンカーを配置して、普段施設を利用しない若年層への周知に力を入れた。 ● 建設後40年以上を経過しており、建物本体及び音響設備の老朽化が顕著であることから、施設の利用ニーズを踏まえた上で、必要な修繕を行う必要がある。	A
77	市美術展覧会費 〔文化・生涯学習課〕	2,111	1,794	・市民の日頃の創作活動の成果を発表する機会として、市美術展覧会を10月5日（木）から10月9日（月・祝）までソフィアセンターで開催した。 出品者数 208人（令和4(2022)年度:237人） 作品展示数 287点（令和4(2022)年度:320点） 入場者数 延べ2,075人（令和4(2022)年度来場者数:3,116人） ・10月5日（木）から、令和5年度の入賞作品をアーカイブ展示している。	○ 芸術活動を行う市民の高齢化が進んでいることで、今後市展への出品数の先細りが見込まれる。令和4(2022)年度から中学生の出品を認め、令和5(2023)年度は9名の出品があった（前年度比2人増）。前年度と比べ会期を半減させたことにより来場者数は大きく減少しているが、1日当たりの来場者は増加傾向となった。 ● 運営委員の世代交代を円滑に進めることで、芸術分野における高齢化に対応する必要がある。引き続き、学生への出品を呼びかけ、幅広い年齢層からの出品を促す工夫が必要である。	A
78	文化振興支援事業 〔文化・生涯学習課〕	2,514	1,977	・文化会館アルフォーレとの共催でアルフォーレ劇場広場を会場とした野外おんがく堂2023を開催した。 ・入場者2,398人 出演17団体 (令和4(2022)年度:入場者数1,619人 出演14団体) ・文化会館アルフォーレ、柏崎音楽協会、柏崎観光協会、柏崎地域国際化協会及び市の5団体で「古典を活かした柏崎地域活性化事業実行委員会」を組織し、「柏崎古典フェスティバル」4事業を実施した。 ・アルフォーレ特選寄席「柳家小痴楽・桂宮治ふたり会」 入場者 503人 ・浅野祥 津軽三味線コンサート 入場者 149人 ・池辺晋一郎 音楽の不思議 ヒトにもビワにも家族がいます 入場者 207人 ・浅野祥 津軽三味線ワークショップ 入場者 26人	○ 「野外おんがく堂」開催により、アマチュア演奏家の発表の場の提供を行い、地域の賑わいの創出につなげることができた。「柏崎古典フェスティバル」を開催し、民間が持つ創造力と知見を活用しながら、良質な古典の鑑賞機会や文化芸術に親しむ機会を提供することができた。 ● 市民一人一人が文化芸術に親しむことのできる魅力あるまちづくりを目指す必要がある。今後も文化交流の発展及び市民の文化への関心や理解が深まる活動に対する支援を行う必要がある。	A
79	文化振興事業 〔文化・生涯学習課〕	25,625	25,175	・見る人全てが一足早く春を感じる企画展として、柏崎の花 -Spring Collection 2024-を2月8日（木）から2月12日（月・振休）までソフィアセンターで開催した。 ・日本を代表する作家や新進気鋭の若手作家による花をテーマとした絵画などの美術作品や美術品、生け花や雪割草など約150点を展示した。 来場者数 延べ3,123人(令和4(2022)年度来場者数:1,507人)	○ 生け花3団体の同時展示や社会福祉法人ロングランアーティストによるライブペイント等の新たな試みを行うことで過去にない来場者数となり、アンケートの結果96%の方から満足評価を得た。 ● 見るだけの企画展ではなく、ワークショップ等を行うことで文化芸術人口の増加を図る必要がある。	S

5 その他教育関係事務事業

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
80 人権・同和教育事業 〔文化・生涯学習課〕	10	2	市民プラザにおいて、12月の人権週間に合わせ、パネル展を実施し、人権に関する啓発活動を行った。 (人権週間の周知、同和問題についてなどのパネル展示をするとともに、全国中学生人権作文コンテスト新潟大会で入賞した市内の中学生の作品3点を掲示した。) また、市民プラザをサテライト会場として開催された人権教育指導者研修会の講演会に社会教育委員2名、一般市民4名、当課職員2名がオンラインで参加した。 くわえて、人権や同和問題に関する研修会(述べ6回)へ一般市民や当課職員が参加し、知識を深めることができた。	○ パネル展では、本年度は全国中学生人権作文コンテストの入賞者の作品を展示し、人権への関心が高まるように努めた。 また、社会教育委員や民生委員など知識を必要とする方々への参加促進に努めた。 ● 学校教育課、人権啓発・男女共同参画室と連携し、同和問題をはじめ、インターネットによる人権侵害など人権問題についての啓発活動を継続して実施する必要がある。	A

— — 用語解説 — —

レファレンス	図書館利用者の学習・研究・調査等のために必要な図書・資料・情報の検索や提供、照会への回答など、図書館職員が行う参考業務全般であり、図書館のサービス事業の重要な要素のひとつ。
I C T	インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジーの略。情報通信技術。従来、用いられてきた「I T」とほぼ同様の意味で用いられるもので、国際的にはI C Tの方が定着している。
デジタル教科書	デジタル機器や情報端末向けの教材のうち、既存の教科書の内容を閲覧するためのソフトウェア。閲覧のほか、編集、移動、追加、削除などの基本機能を備えている。
G I G Aスクール構想	1人1台端末と通信ネットワークを一体的に整備することで、これまでの教育とI C Tのベストミックスを図り、子どもたちの学習活動(一斉学習、個別学習、協働学習)を一層充実させるための国の構想。G I G Aとは、Global and Innovation Gateway for Allの略。
ドライ施設	ドライシステム(床に水が落ちない構造の施設・設備、機械・器具を使用し、床が乾いた状態で作業するシステム)を採用した施設。床が乾いた状態で作業できることで、室内の湿度を低く保ち、細菌の増殖を抑え、食中毒のリスクを低減する効用がある。
進次繰越	継続費の場合に、その年度ごとの予算について、その年度内に支出を終了することができない経費を翌年度以降に繰り越して使用することができるものをいう。
繰越明許	その年度内に支出を終了することができない経費について、特別に、翌年度1年間に限り繰り越して使用することができるものをいう。
事故繰越	その年度内に支出負担行為をした歳出予算のうち、天災地変等による「避けがたい事故」のため年度内に支出を終了できなくなった経費について、特別に翌年度に繰り越して使用することができるものをいう。
プレゴールデンエイジ	神経系の発達が著しい時期(3歳～8歳)をいい、脳を始めとした神経回路の発達が急速に進む大切な時期とされる。運動能力の基礎は、この年代に形成されると言われている。
ゴールデンエイジ	神経系の発達がほぼ完成し、動きの巧みさを身に付けるのに最も適している時期(9歳～12歳)をいう。

〔参考〕

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号）

（事務の委任等）

第二十五条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事務は、教育長に委任することができない。

- 一 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。
- 二 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
- 三 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
- 四 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- 五 次条の規定による点検及び評価に関すること。
- 六 第二十七条及び第二十九条に規定する意見の申出に関すること。

3 教育長は、教育委員会規則で定めるところにより、第一項の規定により委任された事務又は臨時に代理した事務の管理及び執行の状況を教育委員会に報告しなければならない。

4 教育長は、第一項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員若しくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員（以下この項及び次条第一項において「事務局職員等」という。）に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。